



都市を考え、都市を創る情報誌「エフ・ユー プラス」

ISSN 1881-6541

Fukuoka Asian
Urban
Research
Center

NO. 3

都市を考え、都市を創る情報誌
エフ・ユー
プラス

都市を考え、都市を創る情報誌
「エフ・ユー プラス」

URC
Fukuoka Asian
Urban Research Center

都市情報誌
エフ・ユー プラス 第3号
2007年6月22日発行

fukuoka

Fukuoka Asian
Urban
Research
Center

NO. 3

都市を考え、都市を創る情報誌
エフ・ユー
プラス

特集 地域の商店街

—賑わいのある商店街をめざして—



CONTENTS

特集

地域の商店街

01

賑わいのある商店街をめざして

02

グラビア

福岡商店街探訪

04

福岡市の商店街

～その現状と今後について～

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 野口 誠

06

福岡市内商店街のがんばり紹介

～高取商店街・銀天町商店街・みのしま商店街～

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩 事業係 瀧山 直子

08

福岡市の商店街支援策活用のおすすめ

商店街の実行力に応じたメニューを準備しています

福岡市経済振興局振興課

10

大規模集客施設の立地ビジョン

～福岡県における大規模集客施設適正立地を目指して～

福岡県建築都市部 都市計画課長 吉田 信博

12

平成18年度市民研究員研究報告

溜まり場による、商店街活性化

地域の溜まり場として活性化できる可能性

(財)福岡アジア都市研究所 平成18年度市民研究員 鯉川 聡

14

よみがえった商店街～東京都3商店街の事例～

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩

16

まとめ

商店街の再生を考える

(財)福岡アジア都市研究所 理事長 樗木 武

17

URC研究員レポート

高速鉄道の駅とまちづくり

新しくできた韓国と台湾の駅を調査して

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 寺本 義宏

20

福岡アジア都市研究所セミナー

エイジング・イン・プレイス

～新しい高齢者福祉のあり方を考える～

24

データで見る福岡市 vol.3

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩

26

アジア文化

いまどきのアジア美術1

「ポップ傾向」をめぐる

福岡アジア美術館 学芸課長 黒田 雷児

28

アジア太平洋都市サミット 会員都市紹介

APCS都市三大インパクト

ジャカルタ市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 交流推進係長

アジア太平洋都市サミット事務局 山本 公平

ブリスベン市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 山下 永子

32

中国街角スケッチ

杭州アニメフェア

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 唐 寅

33

インフォメーション／次号予告

特集

地域の商店街

—賑わいのある商店街をめざして—

「活きがいいアジが入っとうばい」、「奥さん、安くしてくよ。買って行かんね」。

最近は、こんなやりとりもあまり聞かなくなった。

都市の賑わい空間であり、都市のコミュニケーションの核として機能してきた商店街が、今苦境に立たされている。ライフスタイルの変化、郊外型の大型ショッピングセンターの出店、病院・学校などの都市機能の郊外移転、商店主の高齢化による後継者不足などさまざまな理由が挙げられる。

このような状況の中、国も「改正まちづくり三法」を成立させ、大型商業施設の郊外進出を規制し、商業施設や公益的施設を市街地に呼び戻し、「コンパクトなまちづくり」に方向転換し、再び賑わいあふれる商店街の復活を目指す。

今回の特集は、私たちに身近な地域の商店街にターゲットを絞った。福岡市の商店街の現状を報告し、その状況を改善するための商店街の取り組みや、福岡県・福岡市の振興策、全国の商店街活性化事例を紹介する。

地域の商店街には、まだまだ知られていないおいしいお店、新鮮で安いお店がある。お客さんと商人の暖かいコミュニケーションが残っている。

みなさんもぶらっと商店街に足を運んでみませんか。

福岡商店街探訪

■商店街で働く人々



■唐人町商店街の鶏肉屋さん



■吉塚商店街のパン屋さん



■みのしま商店街「ゆらりん」



■みのしま商店街のケーキ屋さん



■西新商店街の豆腐屋さん



■吉塚商店街の魚屋さん



■銀天町商店街のカバン屋さん



■みのしま商店街の畳屋さん



■高取商店街の和菓子屋さん



■吉塚商店街の花屋さん

■なつかし商店街



■どこか懐かしい雰囲気漂わせる吉塚商店街



■みのしま商店街の食堂



■旧唐津街道の風情を残す姪浜商店街



■高取商店街にある昔ながらの日本旅館

かつては生活の中心で、多くの人々で賑わっていた市内各所の商店街。
時が移り生活様式が変わると、それに合わせ商店街もまた新たな様相を呈していく。
古い町並みを活かし、新たな風を取り入れ、様々な姿を見せる商店街。
いつまでも変わらないのは、そこに集う人々の笑顔。

■なるほど商店街



■吉塚商店街の入り口にある吉塚地蔵尊



■高取商店街の通り沿いにある明治時代に建てられた町家



■高取商店街近くの高取焼盛り窯



■高取商店街の歳末大売出しに普茶料理(中国より伝わった精進料理)を景品として提供している黄檗宗のお寺、千眼寺(早良区百道)

■商店街の新たな試み



■箱崎商店街にある子どもたちの遊び場「きんしゃいさんばす」



■商店街の町並みが美術館に変貌する「香椎まちなか美術館」
写真提供:福岡市経済振興局



■イベントホールやコミュニティ教室を備えた「唐人町プラザ甘菜館」



■高取商店街「土曜夜市」
写真提供:高取商店街振興組合

福岡市の商店街

～その現状と今後について～

(財)福岡アジア都市研究所 主任研究員 野口 誠

福岡市内の商店街の現状

福岡市内の商店街[※]の数は、2005(平成17)年度調査では169団体となっており、2002(平成14)年度調査の209団体から40団体、実に約2割が減少している。

この間、2002(平成14)年度と2005(平成17)年度とを比較した「商店街の景況」、「来街者数」、「商店数」の変化には総じて商店街の厳しい現状が窺われる。まず「商店街の景況」は、6割強もの商店街が衰退(「やや衰退」、「衰退」の合計)となっている一方、「繁栄」はゼロ、「やや

繁栄」でも6.1%に過ぎない(表1)。次に「来街者数」は、ほぼ6割の商店街で減少(「やや減少」、「減少」の合計)となっており、増加(「増加」、「やや増加」の合計)は8.8%にとどまっている(表2)。また「商店数」は、46.2%で減少(「やや減少」、「減少」の合計)、41.5%で横ばいであり、増加(「増加」、「やや増加」の合計)となった商店街はわずか5.4%となっている(表3)。

注)調査では、「福岡市内の5店舗以上で組織化され、かつ、福岡商工会議所で把握できている商業団体」で、そのうち「活動停止、解散、対象外を除いた」ものをカウント。

●表1：商店街の景況

	合 計	繁 栄	やや繁栄	横ばい	やや衰退	衰 退	無回答
回答数	147	0	9	39	56	36	7
比率%	100.0	0.0	6.1	26.5	38.1	24.5	4.8

●表2：来街者数

	合 計	増 加	やや増加	横ばい	やや減少	減 少	無回答
回答数	147	4	9	36	49	39	10
比率%	100.0	2.7	6.1	24.5	33.3	26.5	6.8

●表3：商店数

	合 計	増 加	やや増加	横ばい	やや減少	減 少	無回答
回答数	147	4	4	61	44	24	10
比率%	100.0	2.7	2.7	41.5	29.9	16.3	6.8

商店街の衰退が言われて久しい。「シャッター通り」という言葉でよく表現されるように、空き店舗ばかりで昼間でも商店の多くがシャッターを下ろし、人通りもまばらという商店街が、全国各地でみられている。

福岡商工会議所、福岡市商店街百貨店量販店連盟では、商店街に対するアンケート調査をもとに「福岡市の商店街に関する実態調査報告書」(以下「実態調査」と略)をまとめているが、それによると商店街衰退の動きは福岡市内でも例外ではないことがわかる。以下、実態調査の結果をもとに考察する。

商店街でしばしば問題となる空き店舗についてはどうか。空き店舗が「ある」と回答した商店街は61.2%を占め、「ない」の33.3%を大きく上回っている(表4)。

2002(平成14)年度から2005(平成17)年度にかけての空き店舗の増減をみると、「増加」が37ヶ所(25.2%)と、「減少」の19ヶ所(12.9%)のほぼ2倍となっており、空き店舗を抱える商店街が増加傾向にあることが見て取れる(表5)。九州の中心都市・福岡市でも、やはり商店街の衰退傾向は例外ではないようだ(写真1、2)。

商店街の活性化に向けて

先ごろイギリス、フランスの街をいくつか巡る機会があったが、人口5～10万人程度の都市でも中心市街地には人があふれ、商店街が活気づいていたのに驚かされた(写真3、4)。これらの街に共通していたのは、

・中心市街地の広い範囲で一般車両

●表4：空き店舗数

	合 計	空き店舗 なし	空き店舗 あり	1～2店舗	3～4店舗	5店舗以上	無回答
回答数	147	49	90	36	25	29	8
比率%	100.0	33.3	61.2	24.5	17.0	19.7	5.4

●表5：空き店舗数の変化

	合 計	増 加	横ばい	減 少	無回答
回答数	147	37	71	19	20
比率%	100.0	25.2	48.3	12.9	13.6

の利用を抑制しつつ、歩行者専用・優先の空間が確保されている。こうした歩行者専用・優先空間へのアクセスが、路面電車や路線バス等の公共交通により確保されている。建物の高さや外観等の統一、歴史的建造物の保全、街路のデザイン、電線の地中化等により中心市街地の景観が美しく保たれている等により「人々が歩きやすい」、「人々が歩いて楽しい」空間が創り出されていることであった。美しく保たれた空間を人々がのびのびと回遊する光景には、「自分が暮らす街の中心市街地」に対する市民の誇りさえ漂っているようでもあった。

実態調査では、「今後の商店街活性化対策」についても調査している。これをみると、商店街側の自助努力として「個別店の経営力の向上」、「人材育成」、「業種構成の工夫」等が、また行政や商工会議所に期待する事項としては「資金援助」、「経営指導・アドバイス」等が多く回答されている。もちろんこうした方策が重要であることに異論はない。各店舗そ

れぞれの元気や魅力の向上は、その集合体としての商店街の元気にも寄与するはずである。

ただ、ヨーロッパの都市をみていると、商店街を単体で考えるだけでなく、まちづくりのなかで商店街をどう位置づけるかという広い視点の必要性を感じてしまう。商店街の並びを広い道路が分断してはいないだろうか。大きな駐車場、高い建物などがまちなかに物陰や死角をつくってはいないだろうか。せつかく個々の店舗が努力を重ねていったとしても、商店街において「歩きやすさ」、「過ごし

やすさ」が阻害されることは、人々が商店街を離れていく要因となる。

ヨーロッパの都市でよくみられる歩行者天国やトランジットモールの設定、道路の地下化や駐車場の設置場所の工夫、建物の形状や高さなど全体的な景観への配慮などは、いずれも人々の「歩きやすさ」、「過ごしやすさ」を創り出すものといえるが、実現するには商店街の自助努力などでは解決できないことも数多い。まちづくりのなかで商店街をどのように位置づけどのような機能や役割を期待するのか、人々が快適に過ごす空間として商店街がどうあるべきか、といった広い視点で商店街を捉え、関係者が協力しながら今後の青写真を描いていくことが重要ではないだろうか。

参考文献:「福岡市の商店街に関する実態調査報告書」 福岡商工会議所、福岡市商店街百貨店量販店連盟(平成18年3月)



写真1、2：福岡市内のある商店街の様子。昔ながらの風情が感じられるが、シャッターの下りた店も目立つ。



写真3：海峡に面するドーバー(イギリス)は人口3万人程度の小都市ながら、まちなかの歩行者天国は賑わっている。



写真4：フランス北東部の中核都市リール。美しい街並みのなかに商店街が形成され、歩行者空間も充実している。

福岡市内商店街の がんばり紹介

～高取商店街・銀天町商店街・みのしま商店街～

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩 事業係 瀧山 直子

高取商店街 (福岡市早良区高取)

地下鉄藤崎駅に近い旧唐津街道沿いに発展した商店街で、周辺には元寇防塁、千眼寺、紅葉八幡宮、高取焼窯元など歴史的・文化的資産が残っている。食料品店、衣料品店を中心に現在は74店舗を数える。

高取地区は、文教地区で住宅地として人気があり、マンション建設が続いている。商店街内の空店舗がマンションに転換しているところも多いが、建築主には1階を店舗にするよう依頼している。独身者や若いファミリー層を中心に周辺人口は増加



三大祭り 写真提供:高取商店街振興組合

しており、来街者も若い人が多い。昔からの店舗におしゃれなレストランやブティックが混在している。

高取商店街は、3つの大きな事業を展開している。まず、地域文化振興事業。各界の著名人に旬な話題を講演してもらう「高取文化塾」や、人気の韓国映画などを上映する「高取映画祭」を開催している。次に、地域住民とのコミュニケーション向上のための事業。「土曜夜市」と「三大祭り」がビッグイベント。商店街を歩行者天国にし、パレードや屋台、路上ライブショーなどを実施し、地域と一体になり盛り上がりつつある。そして、商店街活性化事業。商店街スタンプラリーの実施や、情報新聞「あいたかプレス」の発行、ホームページ「あいたかドットネット」を開設している。

このように、さまざまな事業を継続的に実施し、商店街活性化に結び付けている。まさに「継続は力(活性化)なり」である。



高取商店街振興組合
理事長
松田 豊さん

- ・商店街周辺には文化的資産が多く、それを活かした文化的なイベントを実施しています。
- ・「高取文化塾」という講演会を2ヶ月に1回開催しています。「高取映画祭」も実施し、毎回好評です。昨年は、高取焼当主の指導のもと「陶芸教室」も実施しました。
- ・最近では社宅跡地にマンションが建ち、若い人たちや小さい子どもたちの来街が増えました。それに伴い、若い人向けの商店が増え、商店街自体も若返っています。
- ・高取商店街の大きなイベントは、7月の「土曜夜市」と10月の「三大祭り」です。「三大祭り」を、東の「放生会」と並ぶ秋の風物詩として育てていきたいと思っています。

銀天町商店街 (福岡市博多区銀天町)

戦後間もない頃に立ち上がり、JR南福岡駅と西鉄天神大牟田線稚籠隈駅に隣接する好立地の商店街。お年寄りから小さな子どもまで3世代が交流でき、特にお年寄りに優しい街になってほしいとの願いから2005(平成17)年3月に「親孝行の街づくり実行委員会」が発足した。30～40代の若手を中心となり、会員の3分の2は商店街の外部からと、地域とのネットワークづくりにも一役買っている。

よござっしょ春祭り、夏祭り、ストリートパフォーマンス、餅つき大会などのイベントを開催し、商店街に継続的にぎわ



よござっしょ春祭り 写真提供:福岡市経済振興局



家族の絵コンクール 写真提供:福岡市経済振興局

いを創出している。2005(平成17)年より、ゴールデンウィークには「家族の絵コンクール」を開催し、近隣幼稚園・保育園の園児の絵を展示。わが子、孫の絵を見る人が数多く訪れ、好評を博している。

2005(平成17)年7月に地域の身近な情報を掲載した「よござっ書」を創刊し、部数はコミュニティ誌としては異例の3万部。地元中学校の運動部の活躍や商店街内のお店紹介などを掲載している。

コミュニティスペースとして、NPO法人「そよかせ」が高齢者施設を商店街内に設置し、2階をその用途に、1階をお年寄りが休憩できる憩いの場として使用している。



銀天町商店街振興組合
理事長
森 敏秀さん

- ・近い将来稚籠隈高架駅が完成する予定です。あわせて市街地の開発も進み、駅から商店街へのアクセスも含め、街が抜本的に変わっていくことになります。商店街は、「駅高架対策・街づくり委員会」を立ち上げ、計画的な市街地形成を図り、地域が主体となる新たな街づくりに積極的に関わっています。
- ・「親孝行の街づくり実行委員会」は、大変頼もしく思います。若い方や商店街の外から新しい風が吹き込まれており、商店街は地域と共に活性化しつつあります。忌憚のない意見を聞く貴重な機会となっており、要望を少しでも反映させるため一丸となって努力しています。
- ・武田鉄矢さんの実家が近く、「母に捧げるバラード 親孝行の街づくり」を掲げる商店街は、今後とも幅広い世代に親しんでいただけるように頑張っていきます。

みのしま商店街 (福岡市博多区美野島)

博多駅から南西1kmに位置するみのしま商店街。都心部に近いこともあり、最近ではマンションが増え周辺の人口は増加している。生鮮3品(肉・野菜・魚)を中心に店舗数は66店舗を数える。

みのしま商店街は、地域の商店街として地域住民との交流や、商店街をさらにアピールする事業を行っている。第1に、毎年7月に開催され、今年で19回目を数える夏祭り。地元高校のマーチングバンドのパレードや夜店、キャンディ早喰大会などの各種イベントを実施し、今では地域の祭りとして定着している。第2に、2006(平成18)年



第18回みのしま夏祭り 写真提供:みのしま連合商店街振興組合

より毎年1～2月に実施している「鍋セット」宅配便である。商店街の新鮮で美味しい食材を安価で宅配するもので、大変人気で1回に950セットの売り上げがある。商店街をアピールするいい機会となっている。第3は、2007(平成18)年9月にオープンした、みのしままちづくりショップ「ゆらりん」。モーニング・日替わり飲食店・居酒屋・休憩所・ギャラリーなどあらゆる交流を目的に、地域が一丸となり新しいスタイルのお店を展開している。特にランチは売り切れ続出で大人気である。

こうした取り組みが実を結び、空店舗は減少し、若い人たちの新規開業も増えた。また商店主たちにも組合活動が評価され、商店街振興組合への加入率が100%になった。

良いものを手頃な値段で買える商店街をアピールする事業に取り組み、反響を得ているのが素晴らしい。また、歴史を感じさせるお店、新しいお店の両方が共存し、歩いて楽しい商店街である。



みのしま連合商店街振興組合
理事長
鶴崎 孝一さん

- ・みのしま商店街に魅力を感じて、店舗を開く若い人が増えています。商店街の発達のためには商店主間のコミュニケーションが必要だと強く感じています。皆が商店街の仲間という意識を共有することが大切ですね。
- ・営業時間や歩行者天国の時間の延長を考えています。働いている若い方のために夜間や日曜日の営業、また昼時のランチタイム等の便宜のために歩行者天国を現在の13時開始から11時開始への延長などです。
- ・周辺地域はマンション等の集合住宅が多いのですが、商店街まで足を伸ばす方はそう多くはありません。そこで、商店街の商品のよさを知って頂くためにマンションへ出張朝市を行っています。月1度で3年続いています。
- ・営業時間の延長と共に、安く美味しいものが食べられるアジア屋台をオープンできたらと夢を持っています。長期的には観光客にも魅力を感じてもらえる商店街を目指します。

福岡市の商店街支援策 活用のススメ

商店街の実行力に応じたメニューを準備しています

福岡市経済振興局振興課

市内には約170の商店街組織がありますが、消費者ニーズの変化、大型店進出等の社会経済情勢の変化にみられる外的要因と、魅力ある個店の減少、商店街の組織力低下等の内的要因とが複雑に絡み、厳しい状況に置かれているところ です。

一方、商店街は、自らの商業活動だけにとどまらず、新たに「暮らしの広場」として地域コミュニティを支えるまちづくりの担い手として地域の課題解決に取り組むことを期待されています。

福岡市では、商店街の商機能強化と、まちづくり等の社会的活動推進の二つの視点にたって、その実行力に応じて段階的に適用する支援システムを展開しています。

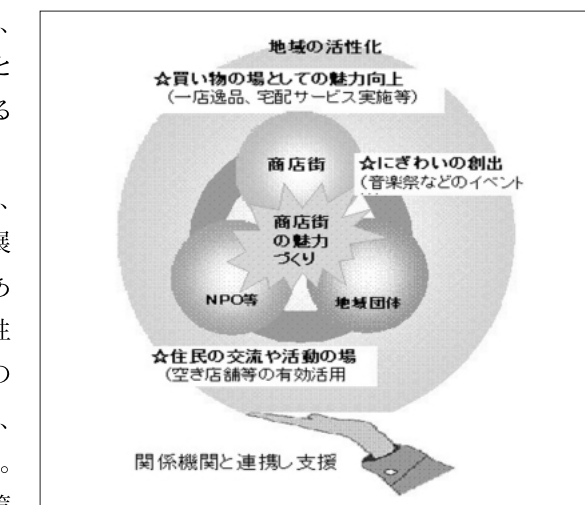
一律的に支援策を適用するのではなく、各商店街の活動計画や実行力に応

じた支援策を活用することで、個々の商店街の課題解決と活性化を無理なく実現することができます。

また、支援体制において、積極的かつ計画的に事業展開が期待できる「やる気のある活動団体」へは、今後活性化に取り組む他の商店街のモデルケースと位置づけ、重点的な支援を行っています。

そのため、一部の支援策

においては、商店街独自に企画した事業内容についてのプレゼンテーションを実施し、審査会を経て支援対象商店街が決定され、以後、継続的な活動実施と報告をお願いしています。一般公開の審査会や報告会には、活性化へ問題意識や関心のある他の商店街関係者



へ参加を呼びかけ、活性化へ向けた悩みや解決策等の情報を共有できる機会となっています。

これらは、他の商店街の「やる気」を喚起するとともに本市の新たな施策の充実・強化を図る上でも貴重な事例となっています。

「きっかけづくり」「はじめての一步」が必要な商店街も、「ステップアップ」する商店街も、地域住民と一緒に「まちづくり」に取り組んでいく商店街も・・・

経営基盤の強化

構想を計画し、研究する

◎「商店街お悩みアドバイス」事業

活性化を図る取り組みの初期段階のきっかけづくりや新たに発生した問題解決のために、実情にあった専門家の派遣をします。



《箱崎商店連合会》のお悩み勉強会風景
～各店の魅力アップを図りたい～

◎「商店街言い隊・聞き隊」事業

一般市民からモニター（言い隊）を募集し、商店街（聞き隊）に対する率直な意見をレポート、両者の意見交換の場の提供をします。

構想を実現する

◎「商店街ステップアップ支援」事業

勉強会等で企画された事業を初めて実施しようとする場合、その必要経費の一部を支援します（図参照）。

◎「商店街にぎわい支援」事業

個性豊かな賑わいのある商店街づくりのために、認知度の向上や集客・販売力の強化を目的とした独自のソフト事業に対する支援を行います。

事業内容に関する一般公開のプレゼンテーションで対象商店街を選考します。



《唐人町商店街振興組合》によるホークス応援企画
～ドームの集客を商店街に呼び込もう～

◎「商店街空き店舗活用」事業

商店街の空き店舗を継続的に賃借し、有効活用し賑わいを取り戻すことに寄与する場合、一定期間の賃借料、改装費の一部を助成します。商店街組織だけでなく、公益活動団体等（社会福祉法人、NPO法人等）や学校等も助成の対象者となります。



《柳橋連合市場》の休憩所
～トイレも自由にお使いください～



《雑餉隈銀天町》
空き店舗利用で、「そよかせ倶楽部」オープン
～高齢者等の交流施設「そよかせ倶楽部」の利用者は商店街のお得意様へ～

ハードを整備する

◎「商店街高度化支援」事業

アーケードやカラー舗装、コミュニティ施設等の共同施設を設置する場合には、その計画に関する助言・診断及び設置経費の一部を助成します。



図：《鳥飼5丁目商店会》の情報紙「とりがいプレス」

社会活動の充実

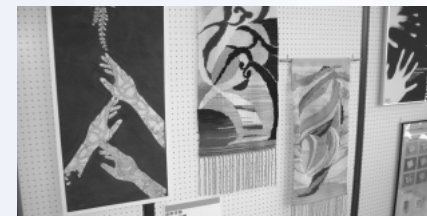
地域と一体となって飛躍

◎「商店街まちづくり活動支援」事業

地域の課題解決などに自力で取り組みまちづくり活動にかかわる商店街に対して、事業費の一部助成と福岡商工会議所・区役所・経済振興局の三者が連携してアドバイスや情報提供などの支援を行います。



《平尾商工連合会》
鎮守の森 平尾八幡宮「あんどん祭」
～手作りあんどん120個を吊り下げて、地域住民と一緒に～



《香椎商工連》「まちなか美術館」
～商店街の店舗に作品を展示、まちなかに文化の香り高い美術館が出現～

商店街の組織体制、活動計画、活動時期などその熟度によって相違する多様な活動に対応できるよう、国、県、福岡商工会議所等、各関係機関との連携をいっそう強化して新たな支援策の検討を進めていきます。

大規模集客施設の立地ビジョン

～福岡県における大規模集客施設適正立地を目指して～

福岡県建築都市部 都市計画課長 吉田 信博

福岡県内の都市で何が起きているか

県内各都市においては、街なか(中心市街地)の居住人口の減少、空き店舗の増加などによる商店街の衰退とともに、大規模商業施設や公共・公益施設の郊外への移転・立地が進み、街なかの衰退が深刻化しています(右図参照)。

今後の都市構造のありかた～集約型都市構造への転換～

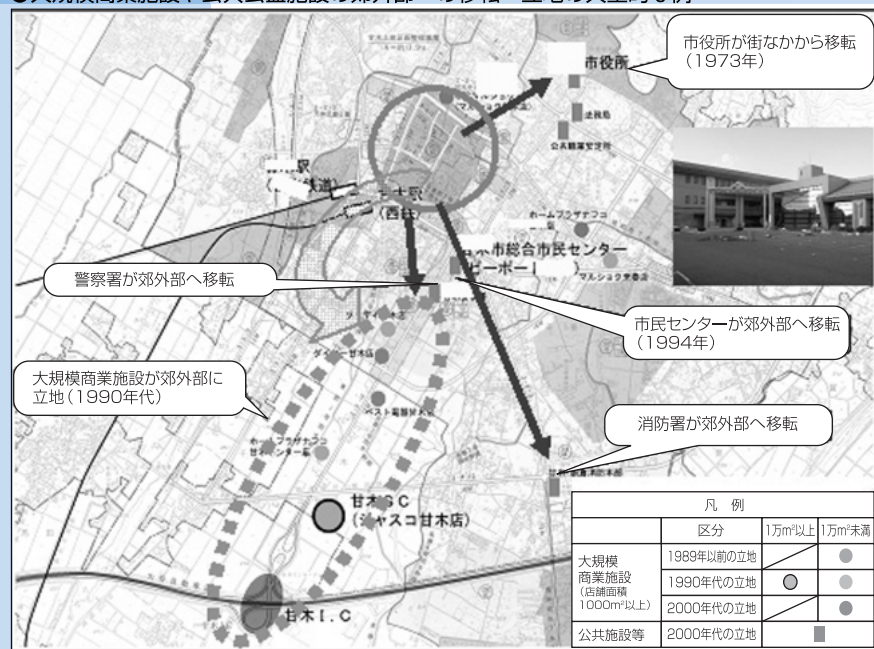
このような状況を踏まえ、県では、「暮らしやすく活力のある環境共生の都市づくり」を目指し、持続可能な県土づくりを実現するため、これまでの「都市機能が拡散する都市づくり」から、「都市機能を集積する集約型都市構造」へと都市の構造を変えていくこととしました。

大規模集客施設の適正立地の方針

集約型都市構造を実現するには、各

街なか(中心市街地)の衰退は、これまで街の中心として各種機能を培ってきた「まちの顔」の崩壊を意味するものであり、このままの状況が続くと、環境負荷の増大など多くの問題が一層顕在化します。この流れを止めるためには、これまでの「都市機能が拡散する都市づくり」から、「都市機能を集積する集約型都市構造」へと都市の構造を変えていく必要があります。福岡県においては、この大きな施策に歩みはじめてところであり、ここに、その一端を紹介します。

●大規模商業施設や公共・公益施設の郊外部への移転・立地の典型的な例



種の都市機能が集積した拠点の形成が必要です。

福岡県では、拠点の場所を明らかにした上で、都市構造に影響のある大規模集客施設は、拠点に立地を誘導し、同時に拠点以外での立地を抑制します。

このような大規模集客施設の適正立地の方針を「大規模集客施設の立地ビジョン」として策定しました。

拠点配置の考え方

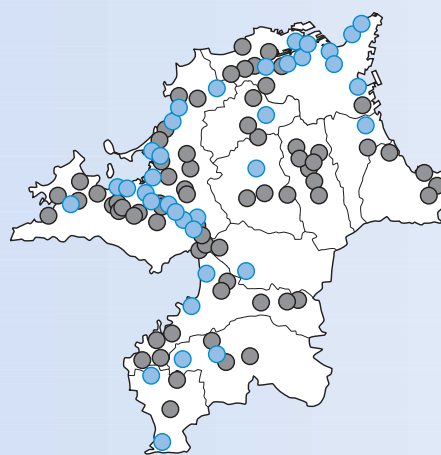
拠点の配置については、集約型都市構造実現の観点から以下の事項を満たす場所とします。

- 多様な都市機能が集積した場所であること(都市機能の集積)
- 多くの人が公共交通等により到達可能な場所であること(公共交通等でのアクセス性)

- 環境に対する負荷が高くない場所であること
- 既存の都市基盤施設ストックが活かせる場所であること(都市基盤施設のストック)
- 都市の持続性が見込まれること(都市の持続性)

拠点の設定

前述の考え方にに基づき、福岡県における「拠点」を以下のように設定します。



●拠点:107地区

- 都市機能(商業、業務、居住、文化、福祉、行政等)が集積している場所
- 多くの人が集まる場所
- 徒歩・公共交通等により、多くの人が到達可能な場所

●広域拠点:37地区

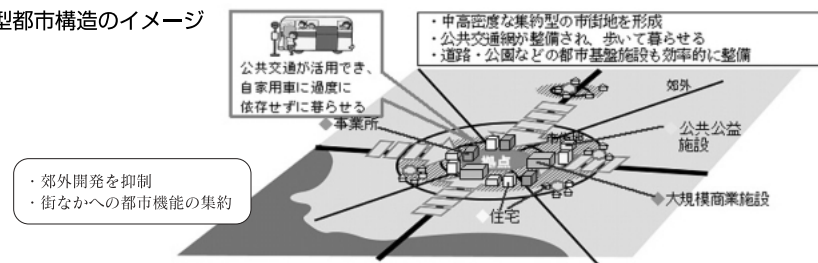
- 一つの市町村を超える広域的で、多様な都市機能が集積している場所
- 広域から多くの人が集まる場所
- 公共交通によるアクセスが確保されている場所

大規模集客施設の適正立地の実現方策

大規模集客施設の適正立地を図るため、この立地ビジョンを、都市計画法に基づく「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(都市計画区域マスタープラン)」として、策定します。

そして右のような、土地利用の方針に基づき、都市計画の手法を活用するとともに、都市計画変更において評価を行い県の同意の基準とすることにより大規模集客施設の適正立地を実現します。

●集約型都市構造のイメージ



おわりに

拠点への大規模集客施設の立地誘導については、都市計画以外の手法も含めて総合的・一体的に取り組むことが必要であることはもちろんのこと、「街なか」を再生するためには、大規模集客

施設の適正立地のみではなく、「街なか居住の推進」、「街なか集客力の向上」といった施策を集中的に実施することが不可欠と考えます。このため、県や市町村だけではなく、住民、事業者、地域経済団体等、多様な主体が連携して取り組んでいきたいと考えています。

大規模集客施設

都市構造に大きな影響がある大規模小売店舗、病院、社会福祉施設、大学、自治体の公共施設(役場やコミュニティセンター等)などの公共・公益施設

	大規模集客施設の種類	大規模集客施設の規模等	うち広域拠点に立地を誘導する規模等
商業・観光系	商業施設 スタジアム、文化ホール等	施設の床面積の合計 3,000㎡ ^(※2) 以上	施設の床面積の合計 10,000㎡ ^(※2) 以上
	公共施設 (庁舎、市町村役場等)	国・地方公共団体が整備する公共施設	国・県が整備する公共施設
公共・公益系	病院	病床数200床 ^(※3) (^(※4))以上のもの	3次医療圏規模のもの
	福祉施設	収容人数200人 ^(※3) 以上のもの	(立地の影響が市町村の範囲を超えるような規模のものはない)
	大学等	学生数が500名 ^(※3) 以上のもの	同左

土地利用の方針

●「広域拠点」における土地利用の方針

広域拠点は、広域的で多様な都市機能の集積を図るため、大規模集客施設の立地を誘導します。広域拠点においては、原則として床面積等の規模上限なく大規模集客施設が立地できるものとします。

●「拠点」における土地利用の方針

拠点は、身近な地域において都市機能の集積を図るものとし、立地の影響が一つの市町村の範囲内に留まる程度の大規模集客施設(原則として床面積^(※1)10,000㎡^(※2)以下の商業施設等)の立地を誘導します。

●「拠点以外の地域」における土地利用の方針

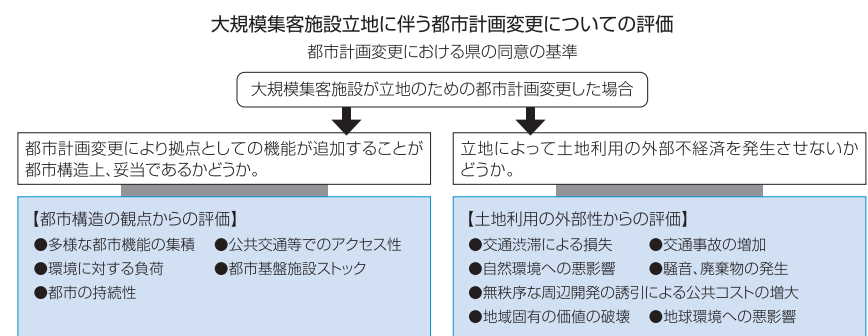
拠点以外の地域は、大規模集客施設の立地を抑制することとします。

●「都市計画区域外」における土地利用の方針

都市計画区域外について、大規模集客施設の立地の可能性がある地域については、準都市計画区域の指定を行うこととします。

(※1) 商業施設、スタジアム、文化ホール、劇場、映画館等の不特定多数の人が利用する施設の床面積の合計
(※2) 立地の影響が1つの市町村の範囲内に留まる程度の規模を都市圏等の実情により定める。
(※3) 立地の影響が街区の単位(徒歩圏)を超える程度の規模を都市圏等の実情により定める。
(※4) 病院には、療養、精神等は除く。

大規模集客施設適正立地に向けた評価



溜まり場による、商店街活性化

地域の溜まり場として活性化できる可能性

平成18年度市民研究員研究報告

(財)福岡アジア都市研究所 平成18年度市民研究員 鯉川 聡

商店街の現状

社会にとって必要であると言われ続けながら、衰退傾向が続く商店街。全国の商店街のうち約90%が衰退傾向にあるとした調査結果があるほどだ。さらに若年層の4人に1人が、商店街の利用経験がないと回答している(本研究にあたり、大学生を中心とした122名に行ったアンケート結果)。「高齢者になれば、誰もが商店街に買物に来る」とは、もはや言い切れない状況だ。

これを「市場に支持されず撤退した」と受け止めることもできよう。しかし商店街は「アーケードなどの社会資本が投資された場所」「近隣立地の買物場所」でもある。そこに、商店街を無くさない、有効な活用方法(活性化)を考える理由がある。

商店街と溜まり場のニーズ

商店街には、買物場所としてだけでなく、地域のコミュニティの集い場という機能があると一般に言われている。確かに商店街では、店主と買物客、また買物客と近隣住民の会話が行われている光景をしばしば目にする。ただ問題は、それらの殆どが立ち話である点にある。

商店街への主要な顧客である高齢者の、商店街へ対する不満を見ると、トイレ・休憩場所が無いという項目が見られる。つまり、高齢者が滞在しやすい場所ではないらしい(写真1)。

一方若年層に商店街にあれば利用したいものという質問(同設問は複数回答を含む)へ対しても、イベント・遊戯施設よりも、カフェ・屋台・居酒屋などの、いわゆる「ちょっと一休みできる場所」が上

商店街が必要だと言われ続けている一方で、なぜ自分を含む地域住民は商店街へ行かないのか。それは商店街へ行く目的がないからではないのか。しかし商業集積であると同時に街としての機能を併せ持つ商店街、地域住民の「交流場所」という機能を持たせることによる活性化の可能性を考える。

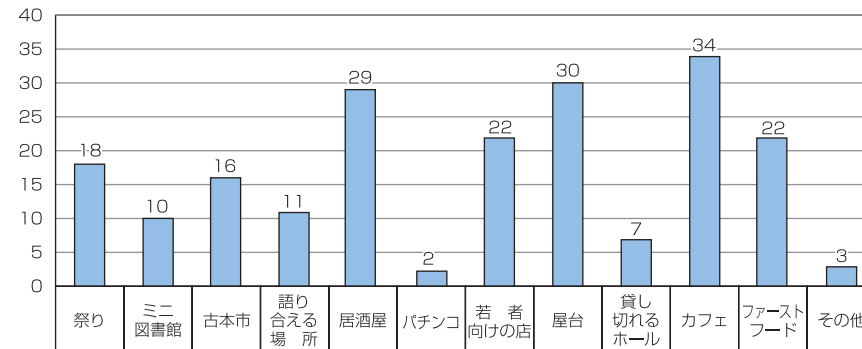


写真1: 店めぐりには、楽しさと疲労がつきもの。店頭に並ぶ商品と歩く人々の様子。

つまり今の商店街は買物をする場所であり、それ以上の時間を過ごす事が難しい場所である。アーケードや店の中を歩き回る事はできるが、腰を下ろして一休みできる場所や、買物以外の用事で立ち寄る場所がなかなか無い。そこで、ゆっくりできる場所「溜まり場」が求められている。

この商店街内の溜まり場がもたらす効果としては、次の3つが考えられる。

●図1: 若年層アンケート「商店街にあれば利用したいもの」



①高齢化社会への対応。溜まり場は、高齢者の不満解消、来客数の増加だけに留まらず、高齢者の交流場所、情報交換の場所というコミュニティの拠点となりうる。

②若年層の取り込み。先の「一休みできる場所を求めている」というアンケート結果は、若年層が商店街へ対してだけでなく、街全体へそういった場所を求めているということかもしれない。近年のカフェブームを見ると、カフェのような溜まり場が若年層の集客要素になる可能性がある。

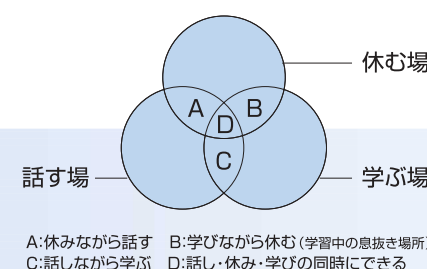
③地域住民へのリフレッシュできる場所の提供。2001(平成13)年の総務省社会生活基本調査によると、買物に使う時間は、全年代平均で一日24分である。この時間を、多種多様の商業店舗が奪い合っているわけである。しかし「休養・くつろぎ」の時間を見ると、全年代平均で一日1時間19分となっており、買物の3倍強である。この時間をどこで過ごすのか。ちょっと気分転換に出られる場所、一休みできる場所として、近隣の商店街内にある溜まり場が活用されるのではないかと。

溜まり場って、どんな場所?

店先にベンチを一つ置くだけでも、そこが買い物客の溜まり場となる可能性は十分にある。そして、溜まり場は各個店でも作ることが出来る。筆者は、溜まり場になる場所の条件として、3つのキーワードを挙げる。「休む」「話す」「学ぶ」。そして「このうち2つ以上を同時にこな

る場所」を溜まり場だと考えている(図2)。

●図2: 溜まり場の概念イメージ



まず、商店街にある溜まり場の実例を見てみよう。最も簡単な溜まり場の例として挙げるのは、東区の西鉄香椎宮前駅近くにある、みゆき通り商店街のベンチ(写真2)。屋外にある商店街内の休憩スペースに設けられたベンチ。「休みやすい」「話しやすい」簡易的な溜まり場となっている。



写真2: 香椎みゆき通り商店街のベンチ

その周辺でも、香椎キラキラ通り商店街にある、香椎副都心まちづくりPR館バルーン館には、喫茶スペース、トイレ、展



写真3: 香椎副都心まちづくりPR館バルーン館

示スペースなどが設けられている(写真3)。前のベンチに比べて天候や気温に左右されず、快適な溜まり場として利用されているようだ。

次に、地域のコミュニティ支援のために作られた行政施設を、溜まり場という観点から見てみよう。福岡市内に144館ある公民館は、「話す」「学ぶ」のキーワードについて充実した施設であるが、「日頃から利用する施設」として公民館を挙げた高齢者は、福岡市において17%(2004(平成16)年度)にしか過ぎない。溜まり場としての要素を満たしながら、利用されにくい施設となっている。その原因として考えられるのは以下の2つである。ついでに立ち寄りといった気軽な利用がしにくいこと、そして公民館と高齢者の買物場所、つまり商店街が離れているところである。福岡市保健福祉局の高齢者実態調査によれば、高齢者の一番の外出目的は買物だ。その買物先の近所、あるいは商店街の中に公民館があったなら、公民館が高齢者の溜まり場として有効に活用されると考える。溜まり場の設置と公民館の利用率向上、そして地域コミュニティ機能の集約という観点からも、商店街の活性化と公民館の立地の面での関係は大変興味深い。

以上、溜まり場の設置による商店街活性化の可能性を見てきたが、どんな溜まり場を作るのかは、対象顧客の年齢、商店街の性質、費用などによって変わるだろう。さらに、何があれば人々が集うのか。閉鎖的だが結束の強いという地域コミュニティの性質を溜まり場へどの程度持たせるのか。このような溜まり場に関する疑問が未だ残っている。これらは平成18年度の市民研究員などで作る自主的な研究会で、さらに調査を進めていく予定である。



こいかわ さとし

1985年福岡市生まれ。2007年3月福岡大学法学部卒業。2007年4月より福岡大学大学院法学研究科博士課程前期に在学。専門は会社法。「ミニ株式会社」の一角を執筆。福岡販売士協会一級販売士。法学研究の一方で、小売流通業、街づくりに関心を持っている。(財)福岡アジア都市研究所平成18年度市民研究員。

よみがえった商店街

～東京都3商店街の事例～

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩

安心・安全による商店街活性化 明大前商店街振興組合(東京都世田谷区)

新宿から京王線で10分、井の頭線と交差する駅が明大前駅である。その駅前広場の一角に「ピースメーカーズボックス」(写真1)がある。これは、商店主たちが作った「民間交番」である。

明大前商店街がある東京都世田谷区松原地区は交番が無く、以前より地域住民が交番の設置を要望していた。2000(平成12)年頃、当地区で、ひったくり、空き巣、痴漢が多発した。明大前商店街振興組合は交番を誘致しようと働きかけたが、用地の確保難から実現できなかったため、自分たちの街は自分たちで守ろうと、ボランティアによる自警団の設置を検討した。2001(平成13)年9月、商店主たちが中心になり自警団(明大前ピースメーカーズ)を結成し、パトロールを開始した。2002(平成14)年4月には、活動拠点として「ピースメーカーズボックス」を設置した。土地は世田谷区と京王電鉄が、建物は世田谷区が無償提供した。40数名の隊員はボ

ランティアで、構成は商店主・店主の奥さん・一般住人が約3分の1ずつである。「ピースメーカーズボックス」には、9時から17時まで1名常駐し、道案内、警察への取り次ぎなどを行っている。現在、登校時は毎日、下校時は週3回、登下校時の安全誘導を実施。夜間は、週6回(除日曜日)、駅周辺半径500メートルをパトロールしている。年間300万円の運営費は、明大前商店街振興組合が拠出している。

このような活動が実を結び、犯罪発生件数が75%減少した。犯罪抑止効果も働いているという。また、児童の挨拶の励行など住民のモチベーションも向上した。こうした商店街の社会貢献が来



写真1: 明大前駅前にあるピースメーカーズボックス

商店街活性化の命題のもと、各地の商店街が知恵を絞り活性化に取り組んでいるが、功を奏している例は少ない。しかし、ひとつのきっかけにより活性化の道が開かれることもある。きっかけを活かし、みごとによみがえった商店街を3つのキーワードから紹介する。

街者の増加につながっている。

2006(平成18)年2月に、駅近くに念願の交番ができたが、住民の存続の希望が大きく引き続き「ピースメーカーズボックス」を設置している。安心・安全の街、住環境良好ということで、周辺地区に比べ地価は高い。

エコによる商店街活性化 早稲田商店会(東京都新宿区)

東京都内に唯一残る都電荒川線の終点、早稲田電停周辺に広がる早稲田商店会。早稲田大学のお膝元である。

大学の町の宿命で、夏休みになれば商店街は閑散としてしまう。そこで、1996(平成8)年夏、早稲田大学の夏休み対策として、当時話題になっていた『環境』をテーマにイベントを企画した。名づけて『エコ・サマーフェスティバルIN早稲田』。その中で、空きカン回収機・ペットボトル回収機・生ゴミ回収機(写真2)を設置。各回収機に入れば、ラッキーチケット(商店街の参加店で使える商品券、割引券)が当たる仕組みを作り話題



写真2: ペットボトル回収機と空きカン回収機

となった。リサイクルをし、ゲームする、「当たり」が出ればそれを持って商店街へという集客装置である。ラーメン屋の「ラッキーチケット」は、「お食事の方は餃子一皿サービス」。当然、ラーメンも注文する。よって、売上は増加するという仕組みである。当たりの確率は、通常7～8回に1回、イベントなどでたくさん当たりを出したい時は3回に1回程度である。コストはリサイクル代金ではまかなえず、ラッキーチケットを出す商店が宣伝広告費として300円程度負担する。新聞折り込みチラシに比べ確実性があり安い。

今では全国各地で110カ所以上導入され、商店街活性化に貢献している。また、各地の商店街と「エコステーション」のネットワークが構築された。大分の『ゆずこしょう』を東京の商店街で販売するなど、大手スーパーにない各地の特産品を販売することが可能になった。

商店街株式会社設立 による商店街活性化

東和銀座商店街振興組合(東京都足立区)

JR常磐線亀有駅から徒歩で約10分の所に東和銀座商店街がある。行ってみて驚かされたことが2つある。まず、屋根のないアーケード。「多目的アーケード」(写真3)という。開放感はあふれているが、雨が降れば傘は必要だ。フレームの中に、電話線、照明設備、放送設備、警報機、交通標識などが組み込まれているため、「多目的」とわれている。

つぎに、空店舗が多いということだ。いわゆる「シャッター通り」である。では、なぜこの商店街が活性化しているかと

いうと、一般的な「集客」による活性化を目指すのではなく、「地域に役立つための商店街株式会社」に活路を見出した。

1990(平成2)年、近隣の工場跡地に東京都の総合病院が開設されることになった。病院内にレストラン、売店が計画されていることを知り、地域のためにと名乗りを上げたが、商店街振興組合では営利事業は難しく、これを機に商店街有志による商店街株式会社「株式会社アモール・トーフ」を設立した。病院内でのレストラン(写真4)、売店事業をはじめ、今では学校給食、老人宅配弁当事業、清掃事業なども手掛けている。また、商店街の鮮魚店の廃業に際し、生鮮3品のうち1品が欠けると商店街には致命的であると、株式会社が経営を引き継いだ(写真5)。

事業に要する食材は商店街の商店で



写真3: 空が見える多目的アーケード

●各地の商店街活性化の取り組み

県名	市町村名	事業者名	事業内容
山形県	新庄市	新庄南北本町商店街	商店街全体を一店の100円ショップに見立て、全ての店の店頭に100円コーナーを設置。
東京都	品川区	中延商店街	高齢者向け「街のコンシェルジェ」、「街中サロン事業」等による地域コミュニティ形成への寄与。
	世田谷区	烏山駅前通り商店街	スタンプ事業の先駆け。スタンプ発行金額は年間約1億円。ボランティア活動でもポイント付与。
静岡県	静岡市	静岡呉服町名店街	一店逸品運動の発祥の地。地権者も巻き込んだ長期的視野に立った商店街の賑わいづくり。
鳥取県	境港市	水木しげるロード周辺商店街	街内に地元出身の水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」に登場する妖怪オブジェを設置し、多くの観光客を集め活性化。
香川県	高松市	高松丸亀商店街	土地の所有と利用を分離した商店街マネジメント組織による適切なテナントミックスを実現。
長崎県	佐世保市	佐世保市内2商店街	市民参加型イベントを実施し、主役を「市民」にすることにより商店街と市民の一体感を醸成。
沖縄県	那覇市	那覇市国際通り4商店街	バスとペロタクシーだけが通行できるトランジットモールを導入し歩いて楽しいまちを実現。

資料: 中小企業庁(2006年5月)「がんばる商店街77選」より抜粋



写真4: 総合病院内のレストラン



写真5: 株式会社アモール・トーフ直営の鮮魚店

調達している。人材も廃業した店主や、地元の高齢者を活用し、商店街や地域に対する貢献度は大きい。

おわりに

ひとくちに商店街活性化といってもその方策は商店街の数だけある。各商店街の地理的・歴史的・経済的背景の相違により、公式は存在しない。しかし、各地の活性化に成功したといわれる商店街には、必ず優れたマネジメント組織とそれを牽引する強力なリーダーが存在する。商店街活性化のキーワードは、商店街・地域住民・行政が一体になった「まちづくりマネジメント組織」といえよう。

商店街の再生を考える

(財)福岡アジア都市研究所 理事長 樗木 武

衰退の商店街、 繁栄の商店街

一般に商店街は、街路に沿って並ぶ形で多くの商店が集積する街区である。日常生活に必要な商品やサービスの提供が商機能の基本をなし、あわせて地域の中心あるいは基幹軸をなすなどの性格を有する。このことから、地域の商店街はまちの形成・維持にとってかけがえない拠点であり、暮らしの中心である。

最近、その商店街が衰退するところが増えている。このことで生活の不便が強いられ、まちのまとまりや魅力にかけ、地域の伝統や文化が消滅するなどがあり、地域そのものがまちの体をなさなくなるという深刻な地域問題の発生である。

一方で、商店街の人々のたゆみない努力や住民、行政からの様々な支援と協力で繁栄を続ける商店街、一度は衰退したものの再生する商店街もある。これらでは多くの人々が集まり、買い物をする、イベントを楽しむ、情報を交換するなど賑わいをみせている。

こうした衰退、繁栄の商店街を互いに比較分析すれば、商店街問題への対応策もある程度見えてくるのではと推察し、本特集となった。

再生可能な商店街を探れ

ところで、大局的に見れば、現代の商店街の衰退に2とおりがある。一つは、少子高齢化の進展や、産業経済構造の変化から、地域全体が衰退し、これに伴う商店街の衰退である(地域衰退即応型)。いま一つは、まちの郊外化や郊外部大規模集客施設との競合で地域構造が変化し、その結果としてそれまでの商店街が衰退するものである(地域構造変化型)。

前者では、地域政策の抜本的転換がない限り、衰退した既存商店街を復活させることも再生させることも困難である。これに対し後者では、地域の構造を変化させた原動力が市民であり、まちづくりの歩みの結果であることを踏まえれば、市民や地域の努力次第では商店街を復活させることも可能と考える。事実今日みられる再生・復活の成功事例はこうした環境下にある商店街である。

これらから、すべてが活性化できるものでないことも確かで、衰退要因を明らかにし再生の可能性を探る必要がある。

商店街衰退の類型と基本施策

そこで、地域構造の変化に由来する商店街の衰退を形態の上で類型化し、

それら類型に合わせた商店街再生策の基本が何かを著者なりにまとめれば以下の通りである。

第1は、商店街の中から穴あきの個店が閉店し、空家や未利用空地が出現するパターンである。ここでは残る個店や施設の市民ニーズを踏まえた魅力アップ策と、地域におけるアメニティや生活サービスの向上のための空き店舗の有効活用策などが再生の基本となる。

第2は、商店街の芯が残りながらも、周辺から衰退する縮退型である。本タイプでは商店街の規模にも課題があり、その適正さを検討すると共に、周辺地域と連携して、住機能の拡充および芯に相当する商店街の近代化をはかることが強く求められる。

第3は、商店街の核となってきた大規模施設が撤退し、空洞化するケースである。本ケースでは新たな核施設の導入、新しいスタイルでの再開発など、思い切った商店街の再生策が望まれる。

いずれにしても、地域の商店街は単なる商機能だけでなく、地域の核としての役割もある。このことと特集した再生事例を踏まえれば、上述の基本施策の概念を念頭に、住民ニーズを適確に把握し、商業者の熱心かつ継続的な努力で、商店街の再生を図ることが求められ、基本であると考えられる。

3 高速鉄道の駅とまちづくり

新しくできた韓国と台湾の駅を調査して



(財)福岡アジア都市研究所
研究主査 寺本 義宏

都市間をつなぐ高速鉄道が韓国と台湾の両国で相次いで開通した。九州でも2011年に九州新幹線が全線開業する。当研究所では高速鉄道の駅とまちづくりについて、先に開業した韓国や台湾の高速鉄道の現地調査を行った。この調査を通じて九州新幹線の駅のあり方やまちづくりの中での駅について考える一助になればと思う。

はじめに

2004年に韓国でKTX(Korea Train eXpress)が暫定開業した(以下KTXと表記)。また、2007年には台湾で高速鉄道が開業した(以下台湾高铁と表記)。そして、2011年には九州新幹線が博多まで全線開業する予定となっている。

高速鉄道が開業すれば様々な面で波及効果が大きくなる。人の流れも多くなるので、駅周辺のまちづくりはどこも再編を行うことになるだろう。

一方、昔からまちを考える上で、駅存在は外せない。駅はまちと外の社会との関係をむすぶ大切な力を持っている。すなわち、駅のあり方を考えることはそのまま「まちづくり」に通じると考えられる。2011年の九州新幹線全線開業を控え、先に開業した韓国および台湾の高速鉄道が停車する駅を調査し、今後の議論の一助としたいと考えた。

プロフィール

KTX

KTX(写真1)は、韓国の高速鉄道システムでフランスTGVの技術を導入して建設された。1990年に路線確定し、1992年6月に着工、2004年4月1日に暫定開業。



写真1：KTX車両



図1：KTX路線図(KTXホームページより)

総事業費は、国家予算の2割に達する総額22兆ウォン(約2兆円)とも言われる。今回は、路線図(図1)の中で、釜山駅、東大邱駅、ソウル駅の調査を行った。

台湾高铁

台湾高铁(写真2)は、台北市から高雄市までの345kmを最高速度300km/h、最速90分で結ぶ。同区間は、一番速い在来線特急の自強号では3時間59分

かかっていた。総事業費は4,806億台湾ドル(約1兆8千億円)。日本として新幹線の車両技術を輸出・現地導入した初めての事例である。1996年台湾政府事業者募集(BOT方式)、1999年3月に着工、2007年1月5日に板橋～左営間試験営業開始、3月に全線(台北～左営)開通・営業開始。路線図(図2)のうち、左営駅、台南駅、嘉義駅、台中駅、板橋駅、台北駅の調査を行った。



写真2：台湾高铁車両

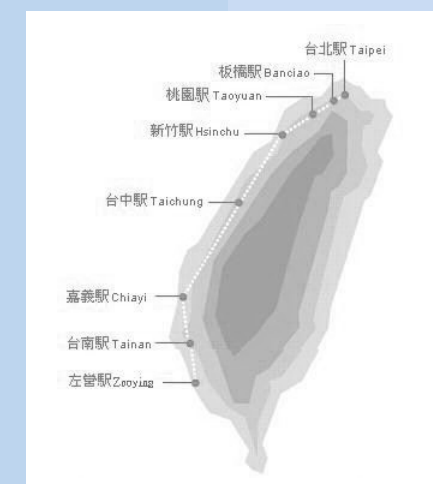


図2：台湾高铁路線図(台湾高铁ホームページより)

駅について

案内板がとてわかりやすい

KTXも台湾高鉄も共通で言えることであるが、案内板がとてわかりやすい。KTXではピクトサインに加えて、ハング



写真3：KTX 案内板



写真4：KTX 案内標識

ル表記、英語表記、漢字表記を標準としていて、ハングル表記がわからない旅行者でもおよそ内容がわかるようになっている（写真3～4）。また台湾高鉄の案内板は、車体色と同じオレンジ色をイメージカラーとしてアクセントで用いている。台湾高鉄は漢字と英語表記のみでハングル表記はない。必要な案内表記はされていて、かつ情報量が多すぎない、シンプルな印象を受けた（写真5）。



写真5：台湾高鉄 案内標識

駅の空間が大きい

コンコースは空間がとて広くかつ大きく感じられた。その空間がとて快適で見通しがよく、それが駅の中をわかりやすく感じさせている。「まるで空港の

ようだ」というのが調査者の一様の感想である。この空間が公共施設のステイタスにも感じられた（写真6～9）。



写真6：KTX 東大邱駅コンコース



写真7：KTX ソウル駅コンコース



写真8：台湾高鉄 左営駅コンコース



写真9：台湾高鉄 台北駅コンコース

明かりの使い方

駅構内の明かりがやさしい。日本では、白い蛍光管でとにかく明るくする印象があるが、特に台湾では照明が工夫されている。昼間は自然採光を多く取り入れ、必要にして十分な明かりを確保してい

る（写真8、9）。また、照明を用いる場合でも、間接照明や、淡い光を用いるようにして、そこにいる者の心が落ち着くようである（写真10～12）。日本であれば京都駅のようなイメージ。照明だけでもこんなにも雰囲気が変わるのかと思う。



写真10：台湾高鉄 左営駅の照明街灯のよう



写真11：台湾高鉄 切符売り場の間接照明



写真12：台湾高鉄 カウンターの明かり

ユニバーサルデザイン

日本では新規駅はもちろん既存駅もユニバーサルデザイン仕様に改善されてきているが、韓国や台湾も今回調査した高速鉄道駅では、エレベーターやエスカレーターがすべての駅に整備されていた。また、日本で考案されたといわれる視覚障害者誘導用ブロックも日本と同様に設置されていた（写真13）。他にもトイレが障害者や子どもも対応できる仕様となっている。そして、どの駅にも授乳室が設置されていた。日本と同じレベルに整備されていて、来訪者にも心強い施設だと感じられた。



写真13：KTX 視覚障害者誘導ブロック

駅周辺について

立地とアクセス

KTXの駅は、在来駅と同じ駅のため、既に各駅とも、在来線、地下鉄、バス、タクシーと乗り換えができるように整備されている。

台湾高鉄については、台北駅、板橋駅および左営駅は、市街地にある在来駅と同じ場所に駅を設置している。一方で、他の駅は、市街地には乗り入れずに地域全体を考えて、地域エリアのどこからでもアクセスできる場所に新規駅を設置している（図3）。このままだと市街地からのアクセスが弱いため、各駅で道路整備（高速道路、標識）や、アクセス線を計画している。このように台湾高鉄の一部の駅は、市街地からのアクセス向上と、後述する駅周辺開発により、駅としての結節点機能の向上を図っている。

将来を見据えたまちづくり

台湾高鉄では、市街地から離れた場所に設置された駅について、将来の台湾国土の軸を形成するべくまちづくりを計画している。例えば、台中駅は、周囲273ヘクタールを特定区とし、「中部行政の中心地」としている。まちづくりの計画を図4に示す。博多駅地区の場合でも、都心部のエッジに鉄道駅ができて周囲

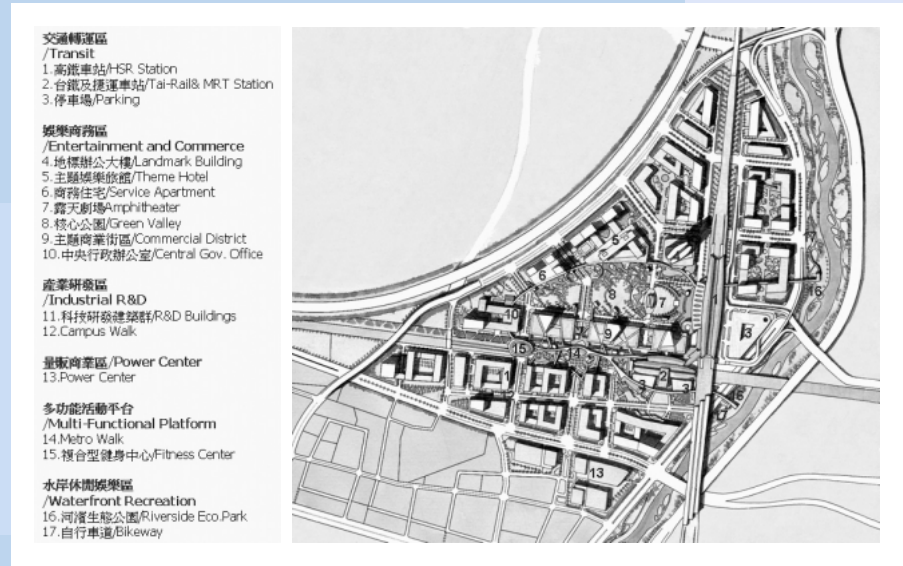


図4：台湾高鉄 台中駅周辺開発（資料提供:台湾交通部高速鉄路工程局）



写真14：台湾高鉄 台中駅上空（写真提供:台湾高鉄）

が区画整理されて今日の姿がある。台湾高鉄駅周辺も、現在のところ駅の周囲はまだ「まち」といえる状況ではない（写真14）が、近い将来「まち」として、大きく発展していくことになるだろう。

その他

最後に面白いと思った写真を数点紹介する。写真15、16は、ホームで見

た広告である。高鉄開通前と開通後の変化をうまく表現している。写真17は、朝の台北駅で撮影した通勤風景である。バイクがとても多い。とても、エネルギーに感じられた。



写真15、16：台湾高鉄 広告（左:高鉄開通前 右:高鉄開通後）



写真17：朝の台北駅前のバイク

終わりに

今回の調査に関して、多大な協力をしていただいた、韓国鉄道公社、台湾交通部および他関係者の皆様には謝意を表する。

福岡アジア都市研究所セミナー

エイジング・イン・プレイス
～新しい高齢者福祉のあり方を考える～Fukuoka
Asian Urban
Research Center
SEMINAR

■基調報告

松熊 功 ((財)福岡アジア都市研究所研究主査)

■パネルディスカッション

コーディネーター

小川 全夫 ((財)福岡アジア都市研究所特別研究員、山口県立大学大学院教授)

パネリスト

藤村 文彬 (福岡市民生委員・児童委員協議会会長)

工藤 由貴子 (国際長寿センター研究アドバイザー)

松永 俊彦 (社会福祉法人福岡ケアサービス理事長)

川島 秀雄 (福岡市保健福祉局高齢者部長)

※所属・役職はセミナー当時のものです。

2007年3月27日(火) 13:30～15:30

福岡国際ホール(西日本新聞会館16階)

基調報告

『地域別高齢者福祉施策の立案
手法に関する研究』の概要

本研究では、住民ニーズへの適合、効率的・効果的な施策、簡便・的確な立案手法、東アジアへの貢献の4つのポイントを掲げ、天神1丁目などの町丁目単位の地域特性、高齢化の未顕在化地域、地域の特徴毎に課題や求められる施策、新しい居住と福祉のあり方を探りながら、地域別の高齢者福祉施策の立案手法を提案しました。

例えば、東区美和台校区全体の平均高齢化率は17.9%で、福岡市全体の平均値よりやや高い状況ですが、これを町丁目毎に見ると、美和台新町の2%台と美和台6丁目の約35%のように、かなりの差異がありました。また、どこで高齢化率が高いか等の判断はできますが、町名表示だけでは、土地勘を持った方しかわからないので、各町丁目単位かつパソコン上でいろいろな地図やデータ、航空写真などを重ねて、視覚的にも非常にわか

りやすいGIS(地理情報システム)により、分析を行いました。GISを使えば、高齢化率を段階的に色分け表示したり、それと高齢者福祉施設の場所を重ねてみたり、例えば高齢化率が14%以上の所だけを抜き出してみたり、戸建てか共同住宅か、バス停や地下鉄の駅から近いか等を併せて見ることができます。

また、国立社会保障・人口問題研究所の「小地域簡易将来人口推計システム」という計算式を使い、例えば現在、5年後等で年齢層をずらして将来を推計しました。引越しがあつたり、子供が生まれたり、お亡くなりになったりなどいろいろな事情がありますので、それは5年間の変化の割合で調整しました。こうして抽出した町丁目毎の2000(平成12)年と2015(平成27)年(予測)の高齢化率をGISで表示しました。これにより、地域によっては高齢化が今は顕在化していても、これから進む所もある等の変化が分かりました。

また、同年代に広範囲に作られた団

地の場合は、同じ年齢層が集まり、高齢化も一気に進むということが考えられます。区画整理事業が実施された場所や、大規模な宅地開発、公団・公社等によって造られた団地などを併せて見れば状況がよりわかってきます。実際に地域を分類した結果、賃貸共同住宅及び持ち家戸建て住宅に住む高齢者がそれぞれ多い地域が抽出できました。また、それらの地域の居住者にヒアリング調査を行い、それぞれの特性データや現状及び課題、求められる施策等をまとめました。

今回、短期間の研究でもあり、手法を提案するのみで、政策自体の提言までには至りませんでした。介護保険制度を例とした、直接個人を対象とした施策に加えて、ニューヨークのNORC(Naturally Occurring Retirement Community)での支援プログラムや農業分野で地域に対して直接交付金が渡される中山間地域等支払制度などのような、地域に根ざした社会関係資本重視型の施策を組み合わせることが必要となると考えられます。

※なお、今回の基調報告の配布資料につきましては、当研究所ホームページ(<http://www.urc.or.jp>)の「第5回都市セミナー」に掲載しておりますので、併せてご覧ください。

パネルディスカッション

福岡市におけるエイジング・イン・プレイス(老いてもその場所に住み続ける)の実現へ

○小川 全夫(コーディネーター)
((財)福岡アジア都市研究所特別研究員、山口県立大学大学院教授)

福岡市は日本でも一番元気があり、随分と若い都市というイメージがあると思いますが、この若く見える福岡市の中にも高齢者がたくさん集まっている地区があります。日本の少子高齢化というのは、この福岡市でも例外なく進行しています。今日は、我々がずっとその場所に



居続けながら生活し続けることができるのか、そうするためには一体何をしなくてはならないのかということについて考えたいと思います。

○地域福祉の担い手は民生委員・児童委員

藤村 文彬

(福岡市民生委員・児童委員協議会会長)

これからの社会福祉は地域福祉がキーワードとされていますが、その地域福祉の担い手、人的資源として、また住民の立場に立って、あらゆる課題についての相談相手ということで民生委員・児童委員が位置づけられています。

福岡市民生委員・児童委員協議会では、阪神淡路大震災の教訓を生かし、一人暮らしの高齢者や障がい者を対象とする「災害時要援護者台帳」を整備しています。福岡市では2005(平成17)年3月20日の午前10時53分頃、震度6弱の地震を経験しましたが、「要援護者への安否」(65歳以上で自力避難できない方を対象とした安否確認)について、民生委員の63.9%が自主的に行ったということで、これはかなりの数値です。民生委員が訪問して、要援護者からかなり安心感を抱いていただいたと感じています。

要援護者を地域で支えていくためには、民生委員が持つ情報を地域で共有していくことが必要です。しかし、個人情報保護との関係で難しい問題です。

この課題をクリアするため、今年から実験的に地震、自然災害に限定して、自治協議会と情報公開覚書を取り交わし、連携して当たろうという動きになっています。この実験が成功すれば、「福岡方式」として全国でも最初の事例に

なるのではないかと思います。

○元気な高齢者と地域の活性化

松永 俊彦

(社会福祉法人福岡ケアサービス理事長)

私どもの社会福祉法人は自立型のケアハウスですが、介護型の老人ホーム、その他訪問ヘルパーやデイサービス等の在宅高齢者の支援も社会福祉法人でやっています。

福岡市の場合、各区に市立老人福祉センターというのがあります。60歳以上の方は無料で利用できます。高齢者も若い世代も、今までほとんど町内で会っても挨拶程度しかなかったのですが、一つの共有する目的ができて、いろんな形で会合を開くようになり、町内が見える見る活性化されてきました。最近、ソーシャル・キャピタルという、地域力を活用した地域の活性化が話題になっています。これからの超高齢化社会を迎えるに当たり、やはり高齢者が元気に地域のボランティア活動や地域行事に参加しながら、一つの共有する目的意識や役割を持ち、その中で若い世代にいろんなことを継承していくというのが、これからの地域の一番の活性化につながっていくのではないかと、ということを実感しています。

○コミュニティ・ケアによる地域づくり

工藤 由貴子

(国際長寿センター研究アドバイザー)

今や人口の高齢化、すなわち、社会が高齢化していくという現象は、どの社会にも共通の課題としてあります。先ほどの基調報告でも、高齢者が増えて何が悪いという問題提起がありましたが、本当にそう感じます。高齢化が進むということは、私たちの目の前に全く新しい社会が実現するということで、かなりワクワクしたような気持ちになるというのが、正直なところですよ。

今、私たちが目の前にしている高齢社会では、助ける人がいて助けられる

人がいるというように固定化して考えるのではなく、みんなが助ける人に、みんなが助けられる人になって、お互いの力を発揮しつつ、新しい社会を形成していくという考え方がふさわしいのだろうと思います。コミュニティ・ケアというのも、コミュニティでケアをする、すなわち、自分がいて、家族がいて、そして家族だけでは支えられないところを地域が、そして行政が支えながら、コミュニティでケアすることに留まらず、私たちがそれを通じて地域をつくっていく。ケアを通じて多様な人が協力し合い、より住みやすい地域をつくって、次の世代に渡していくというように捉えられるのではないかと思います。そういう意味で、この福岡の試みは大変素晴らしいと心から感動しています。

○これからの団塊世代施策の展開

川島 秀雄

(福岡市保健福祉局高齢者部長)

福岡市の高齢化率というのは全国平均ベースよりも5%低く、全国平均が2014(平成26)年で25.3%、4人に1人が65歳以上のお年寄りになる段階でも、福岡市はその時点でまだ5人に1人、20%ということで、5%の差ですと全国平均を追いかけていく若い都市です。高齢化率は2006(平成18)年で15.8%、総人口に占める65歳以上が約21万6,000人で、そのうち要介護の認定を受けている方が、20%程度の約4万4,000人です。残りの80%の方は要介護ではなく、病院等にかかっている方も基本的には元気な高齢者、ある意味で在宅系、施設系の介護保険のサービスを受けずに済むという方です。65歳以上の80%の方が非常に元気な方であるという流れの中で、元気な高齢者の方に対する市の予算は、介護保険に対する福岡市の持ち出し分等を含め、約132億 8,800万円です。生きがい系の予算は、老人クラブやシルバー人材センターに対する助成、高齢者乗車券、

老人福祉センターの委託経費等も含めて約20億円です。ということで、80%の元気な高齢者に対する予算構成割合というのは約15%という状況です。

2007(平成19)年から、いわゆる団塊の世代が定年退職を迎えますが、私どもの既存政策の中で、これに対する今現在の手持ちの施策は何もないというのが実態です。既存の施策展開は当然ありますが、いわゆる団塊世代予備軍と言われる方々についても、行政の施策としてどういうものを希望されるのか。あるいは「我々は元気だから、そういうサポートは要らない」と言われるのか。それらを含めて意向をお聞きし、施策展開につなげていこうとしているのが現状です。

○工藤

アメリカではご承知のように介護保険はなく、医療保険もユニバーサルなものでなく、老いていくということに対しては厳しい社会です。ニューヨーク市では、多くの人はアパートメントに住んでいます。自然にエイジング・イン・プレイスが進むと、ビルの半分以上を60歳以上や65歳以上というところが出てきました。このままでは共倒れになってしまう。体が動かない人がいるし、常駐のナースもいないし、何かあったときにはどうしたらいいのかということで、自然発生的に助け合いのネットワークを作っていました。老いていく人が老いていく人をお互いに見守りつつ、字が読めない人には来た手紙を読んであげるというようにさまざまなケアをしながら、住民同士が何とかそこで住み続けられるような手だてを講じました。住民たちが自分たちで高齢化してしまったビル、住宅群をどのようにしたいかという実践記録や要望をまとめて行政に提出し、行政がそれを認めてそのビル全体のサ



ービスを提供するために助成金を出すというシステムが先ほどの基調報告でも紹介されたニューヨークのNORC(Naturally Occurring Retirement Community)です。

このシステムは、日本にとって幾つかの点で示唆的だと思いました。1つは、今、日本では介護保険という世界に冠たる素晴らしいシステムがありますが、高齢化が進み、今までのような個人の心身状況によってサービスを供給するという形では財政が破綻するところまできています。何をどう援助すべきかを新しい目で見直す必要があるのではないかと。1人に援助をしたなら、それがみんなのためにもなり、蓄積にもなるような援助をすることです。2つ目は、自立を支えることがすごく大切で、弱くなる前に支えるシステムがあれば弱くなりやすい。弱くなっても、その弱さのまま、そこに居続けられます。NORCでは、自立ができている人も一緒になって、これから10年、20年、30年先をどうしようという長期的視点で考えていく。私たちの自立を支えるために何が必要かをじっくり考えています。3つ目は、日本の場合、高齢者はとにかくサービスの受け手であるという固定的な見方があります。NORCでは、高齢者は単なる住民ではなく、自分がボランティアとしてサービスを作り出す人でもある。サービスを発見して、それを政策に反映していく。高齢者自身がいろいろな役割を果たしながら、知らない間に歳を重ねていくことの楽しさを感じています。

○松永

私どもの施設、ケアハウスでは、地域の高齢者の方が通って来られて、そこでいろんな活動を行っています。入居されている方が地域行事と一緒に積極的に参加したり、コンサート等をやって地域の方も見に来ます。私どもが非常に力を入れているのは世代間の交流です。保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、いろんな世代の人に施設に来ていただき、地域の方々と積極的に交流を行っています。それによって子供たちもお年寄りも非常に表情が生き生きとしています。私たちがいくら良いケアやサービスをしても、子供の笑顔には勝てません。子供たちの明るい笑顔は、お年寄りには何物にも代え難いものです。

福岡市立の老人福祉センターでは、高齢者に関する各相談事業を行っていますが、それ以外に教養講座もやっています。教えている方々も実は高齢者です。社交ダンス、生け花、三味線、将棋等、全部で60教室やっていますが、高齢者が高齢者に教える。人に何かを教えるのは、高齢者にとっても一番のやりがい、生きがいにつながっていくのではないかと、私も見ていて非常に実感しています。

○小川

日本でもだんだんとこのような関心が高まっており、「生涯現役」なんていう言葉もよく使われるようになりました。紹介のあったこういう施設であれば、そこで老後をずっとアクティブに住み続けるという理想は実現できると思います。

○藤村

民生委員の目は、どうしても福祉に欠ける高齢者の方に向いていたということがあります。元気な高齢者の活躍の場等も考えていかないといけないと考えています。高齢になられても、その地域に安心・安全に住めるということをインプットできれば、その役割があるのではと思います。今後は、将来ここに住ん

でいても大丈夫だという安心感を与えられるような活動を考えていきたいと思っています。それにはやはり「地域の福祉力を高める」ことに力を入れていかなければならないと思います。地域の福祉力が高まっていけば、高齢者も安心して住み続けていけると思います。

団塊世代の方々の趣味を聞くと、最近バンドをやっている方も多く、ビートルズの曲を演奏して楽しんでいる高齢者も増えました。コンサートやサッカー等、安価で行けるようになれば、高齢者が喜び、元気に過ごされる。一つのところにとどまるのではなく社会参加という形で、そのような助成が考えられたらいいと思っています。

○川島

福岡市は、人的な問題も含めて、財政収支力が非常に厳しい状況にあります。今後は団塊の世代の対策も含めて、全国的な少子化の流れの中で、高齢者の方についても働いていただくという形が当然予想されます。60歳を過ぎて背広を脱いで名刺がなくなり、そういうときに地域にどうやって入っていくのか。小さい子供の公園デビューではないですが、地域に溶け込むような形のプログラム等の情報提供する場を展開することが、必要かもしれないと考えています。活躍の主体はあくまでも市民の方、特に高齢者の方、特に元気な高齢者の方です。行政として限りある財政の中で、どうサポートしていけるのかが構築できれば、コミュニティとして住みやすい場になると思っています。

○工藤

「パートナーシップ」という言葉があります。行政、老いていく私たち自身、それから福祉の事業をなさっておられる方々、民生委員の方々と、上手くパートナーシップを組

んで生きていくということ、あるいは違う世代の人たちがパートナーシップを組んでいくということが大事だと思います。身近な人とのパートナーシップも大切です。一人ひとりが何をしてほしいとか、何をしたいとか、そういうことを明らかにしていくことが、まずパートナーシップの第一歩であり、それを築くことが住民一人ひとりの責任といえるのではないのでしょうか。そういう行為の積み重ねを通してパートナーシップが築けるのだろうと、NORCの事例をみて思います。

○小川

これまではどちらかと言うと中央集権的な社会の仕組みで、国が定めたいろんなプログラムがあり、それを基礎にプラスアルファで独自のアイデアを市町村で考えるというのが一つの姿でした。しかし、今は地方分権の時代になり、住民からの発意に基づく事業を、市町村が責任持ってやる時代になってきました。

福岡市もさまざまなアイデアを住民の側から提供すれば、それに対して助成金が出るという仕組みは出来上がっていますが、それを上手に使えるかがこれからです。行政も財政難で何もできないというのではなくて、行政と住民が仕分けをしながら取り組みができるような仕掛けが何かできないかなと思います。そういうことができると、もしかすると日本版のNORCが動き出すのではないかと考えています。



データで見る福岡市

vol.3

Data of Fukuoka city

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 今川 浩

このコーナーでは、福岡市にまつわる様々なデータをもとに、福岡市の現在の姿をご紹介します。

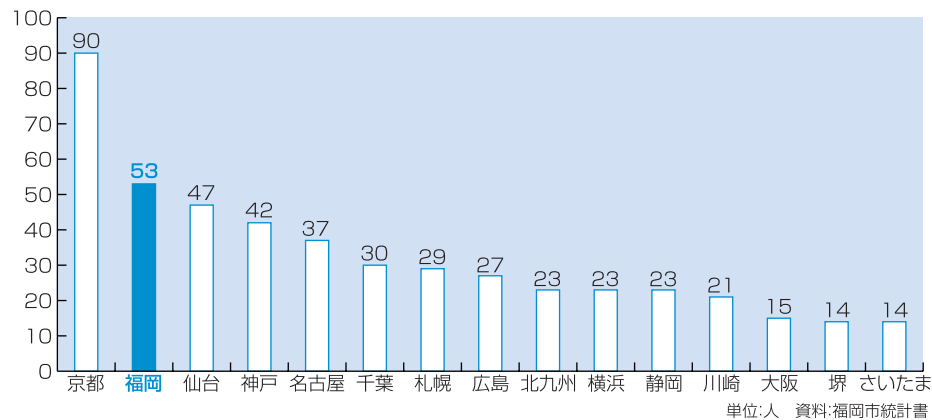
今回は「福岡市と大学生」ということにスポットを当ててデータを紐解いてみます。福岡市は学生が多いといわれていますが、実際にどれくらい多いのか、大学生のデータと併せ、短期大学、専修学校のデータも紹介します。

大学生の割合 政令指定都市の中で第2位 (東京都特別区を除く)

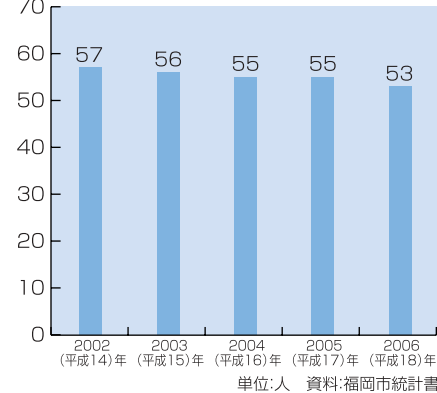
文部科学省平成18年度学校基本調査報告書によれば、2006(平成18)年5月1日現在の福岡市の大学生の人数(大学院生を含む)は、74,830人です。同日現在の推計人口が1,410,193人なので、人口千人あたりの大学生数は約53人です。全国の政令指定都市間で比較すると、京都市が90人とダントツで第1位です。福岡市は次いで第2位です。ただし、東京特別区は55人で、東京特別区を含めれば第3位になります(表1、図1)。

ただし、その推移を見てみると、2002(平成14)年の57人から、2006(平成18)年には53人と減少傾向にあります(図2)。

●図1：政令指定都市における人口千人あたりの大学生数(2006(平成18)年5月1日現在)



●図2：人口千人あたりの大学生数の推移(各年5月1日現在)



●表1：政令指定都市・東京特別区の大学生比較データ(2006(平成18)年5月1日現在)

都市名	学校数	学生数	人口	人口千人あたりの大学生数
札幌市	14	54,917	1,886,474	29
仙台市	10	48,476	1,025,973	47
さいたま市	4	16,387	1,181,141	14
千葉市	7	28,248	928,020	30
東京特別区	85	469,216	8,548,667	55
横浜市	11	83,084	3,596,523	23
川崎市	3	28,447	1,337,482	21
静岡市	4	16,268	711,947	23
名古屋市	15	82,625	2,219,546	37
京都市	25	132,639	1,473,702	90
大阪市	9	39,099	2,635,120	15
堺市	6	11,732	831,294	14
神戸市	18	64,332	1,528,591	42
広島市	12	31,294	1,155,908	27
北九州市	9	23,049	991,323	23
福岡市	11	74,830	1,410,193	53

単位:校、人 ※学生数は大学院生を含む 資料:学校基本調査、各市統計資料(人口は推計人口)

少子化が叫ばれていますが、実際に学生数はどう推移しているのでしょうか。2002(平成14)年と比較し、学校数は1校減り、学生数は3,654人(4.7%)減っています。では、短期大学、専修学校はどうでしょう。短期大学も学校数は1校減り、学生数は732人(12.0%)減少しています。ただし、大学、短期大学の学校数の減少は統合(九州大学と九州芸術工科大学、九州大学医療技術短期大学部)によるものです。専修学校は、学校数、学生数とも増加しています。学校数は9校増加し、学生数は2,929人(9.3%)増加しています。課程別では、工業関係が1,608人(32.1%)減少したのに対し、医療関係が3,747人(104.3%)と倍増しています。高校卒業後の進学先として、職業に直結した知識・技能が学べる専修学校に人気があるようです(表2、表3)。

最近の大手予備校の調査によると、福岡市内の「有名校・伝統校」「専門性の高い大学」の志願者が増加しています。入学後、楽しい学生生活が送れそうということも大きな要因ということです。

2007(平成19)年4月、福岡市東区のア일랜드シティにサイバー大学が開校されました。授業は全てインターネットを使って行われ、学校には通学不要です。今後このような大学や学部が増えれば、大学生数にも大きな変化があらわれるでしょう。

●表4：2006(平成18)年度福岡県の大学・短期大学入学者出身県データ

県名	大学	短期大学
福岡県	14,149	3,077
佐賀県	1,475	218
長崎県	1,287	317
熊本県	1,132	251
大分県	1,137	248
宮崎県	823	184
鹿児島県	1,107	201
沖縄県	301	51
ほか	4,061	425
合計	25,472	4,972

単位:人 資料:学校基本調査

●表2：大学・短期大学・専修学校・各種学校の推移(2006(平成18)年5月1日現在)

	大学		短期大学		専修学校		合計	
	学校数	学生数	学校数	学生数	学校数	学生数	学校数	学生数
2002 (平成14)年	12	78,484	10	6,100	79	31,446	101	116,030
2003 (平成15)年	12	77,724	10	5,673	81	33,496	103	116,893
2004 (平成16)年	11	76,266	10	5,507	87	34,578	108	116,351
2005 (平成17)年	11	77,469	10	5,451	88	35,287	109	118,207
2006 (平成18)年	11	74,830	9	5,368	88	34,375	108	114,573
4年間の増減	△1	△3,654 (△4.7%)	△1	△732 (△12.0%)	9	2,929 (△9.3%)	7	△1,457 (△1.3%)

単位:人 資料:福岡市統計書

●表3：専修学校生課程別推移(各年5月1日現在)

	工業関係	農業関係	医療関係	衛生関係	教育・社会福祉関係	商業実務関係	服飾・家政関係	文化・教養関係	合計
2002 (平成14)年	5,003	19	3,593	2,979	1,415	7,082	923	10,432	31,446
2006 (平成18)年	3,395	24	7,340	3,729	1,439	7,217	535	10,696	34,375
4年間の増減	△1,608 (△32.1%)	5 (26.3%)	3,747 (104.3%)	750 (25.2%)	24 (1.7%)	135 (19.1%)	△388 (△42.0%)	264 (2.6%)	2,929 (△9.3%)

単位:人 資料:福岡市統計書

大学生の出身地

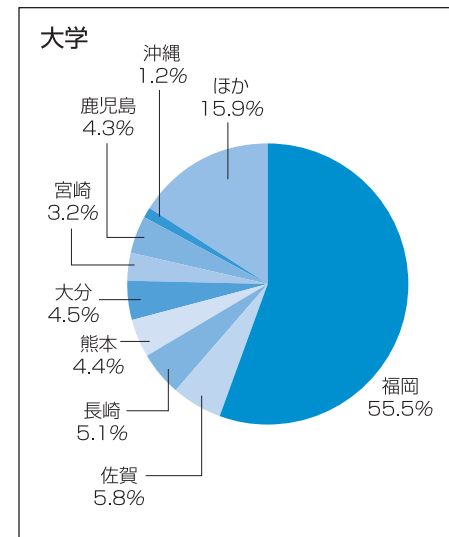
では、大学生のみなさんはどこから来られているのでしょうか。県単位ではありますが、文部科学省平成18年度学校基本調査報告書にデータがありますので見てみましょう(表4、図3、図4)。

平成18年度、福岡県の大学入学者数は25,472人でした。そのうち、地元福岡県出身は、14,149人と55.5%です。次いで、佐賀県1,475人、長崎県1,287人と続きます。福岡県を除く九州・沖縄出身者は7,262人(28.5%)で、福岡県

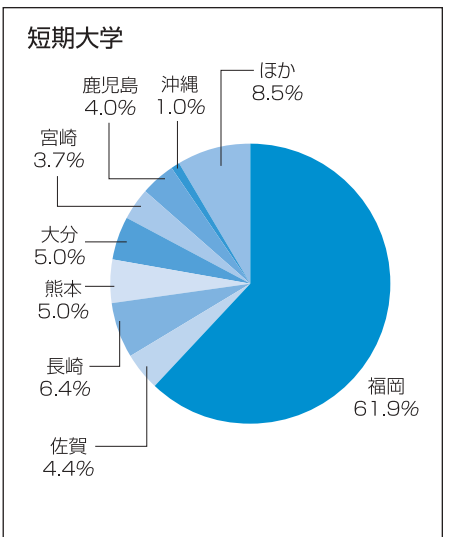
とあわせ、九州出身者は84.1%を占めます。短期大学でも、九州出身者は91.5%です。

このように、福岡市は全国でも大学生の割合が多い都市です。またそれが都市の活力につながっていると思います。少子化が進み学生数は減少すると予想され、各大学・学校は、特色ある学校運営を求められています。若い人たちが集う魅力的な福岡市であり続けるためのまちづくりが必要です。

●図3：大学入学者出身データ



●図4：短期大学入学者出身データ



いまどきのアジア美術 1

「ポップ傾向」をめぐって

福岡アジア美術館 学芸課長 黒田 雷児

近年のアジア各地では、広告、マンガ、ゲームなどのイメージや手法を使った「ポップ」な傾向が目立ってきた。「アジアらしさ」というステレオタイプから脱して若手アーティストはどこに向かうのか？
2回に分けて近年のアジア美術の知られざる側面を紹介する。

ここ20年の間、多くのアジアの地域で現代美術の状況は激変した。かつての主流だった、伝統技法による作品、伝統色とヨーロッパのモダニズム様式を折衷した絵画などに代わって、国外から注目をあびる先端的・実験的な美術では、大がかりなインスタレーション（絵画でも彫刻でもない空間構成）は当たり前になり、映像作品も盛んになってきた。中国などの一部の作家は、今や欧米の展覧会でひっぱりだこになり、作品価格の高騰もすまじい。福岡市美術館が1970年代末にアジア美術の調査を始めたときには、日本・韓国以外のアジアには「現代美術」が存在するとは思われていなかったのだから、隔世の感がある。

もちろん情報や人の移動が高速化し多方向化したグローバル化の影響もあるが、作品そのものの変化も大きい。その変化のひとつの例として、福岡アジア美術館のコレクション展「ポップ魂～現代美術と大衆文化～」(詳細は文末参照)を契機に、近年にアジア各地で目立ってきた「ポップ傾向」について述べてみる。(なおここで述べるのは、1960年代アメリカのポップ・アートと同じく、広告、マンガ、商品などの様式や手法を用いた、美術館やギャラリーで展示される美術における「ポップ傾向」のことであって、「大衆文化」そのもののことではない。)
アジア美術が大きな変化を始めたのは1980年代後半からだが、その頃にい

ち早く「ポップ」な感覚で目立ったのは韓国のチェ・チョンファ(図版1)である。韓国特有のキッチュな都市文化から、プラスチックの大量生産物やおかしな広告を組み合わせた作品には華やかさと空しさが交錯する。90年代に入ると、天安門事件以後の沈滞の中にあつた中国から「政治的ポップ」が現れる。文化大革命時代のプロパガンダの人物と開放政策を象徴する欧米商品の商標、毛沢東と水着の美女を並べるとい手法は、90年代後半の「艶俗芸術」といわれる傾向ではますます俗悪さをエスカレートさせた。安易な手法ではあるが今もなお「中国らしさ」とビジュアルの強烈さによって国際美術市場で人気を博



図版1：チェ・チョンファ(1961-)『メイト・イン・コリア』1991
カラー写真、アクリル板、プラスチック椅子



図版2：ルオ三兄弟(1963-, 64-, 72-)『我、北京天安門を愛す #28』1996-97
写真、コンピュータグラフィック、水彩、漆、板



図版3：タウィーサク・シートンディー(1970-)『力』2005
アクリル・腰布



図版4：アブダス・サラム(1971-)『リアルな幻想2』2003
アクリル・画布



図版5：ティファニー・チュン(1969-)『至福への近道』(部分)2004
Cプリント(カラー写真)



図版6：ツァオ・フェイ(曹斐)(1978-)『コスプレイヤー』2004
ビデオ(8分)

している。その中でもルオ三兄弟の作品(図版2)は、漆という技法と「年画」の伝統の再利用によって独自の存在だった。ただし、あからさまな自国らしきの主張は、アジアにおけるポップ傾向ではむしろ例外的なものである。台湾のメイ・ディンイーは、台湾のアイデンティティや歴史を真摯に問いかけるために台湾の政治家やポップなイメージを使うのに対して、同じ台湾のヤン・マオリンの近作は臆面もなく日本のアニメ・マンガ文化をパクっている。鉄腕アトムとミッキー・マウスを組み合わせた「アトマウス」というキャラクターを描く韓国のイ・ドンギも、そのマンガが日本製かアメリカ製か韓国製かはどうでもよくなっている状況を表している。

このような作例を見て誤解してはいけないが、日本から輸出されたマンガやアニメの影響が東アジアや東南アジアに広く見られるのは確かであっても、それは決して汎アジア的ではないということである。実際、インドネシアのエコ・スグロホやタイのタウィーサク・シートンディー(図版3)の作品は明らかに「マンガ的」であっても、日本の影響は見出しにくく、むしろタウィーサク作品はアメリカのコミックを思わせる。近年に注目を集めるインドの美術でも、日本のアニメ・マンガ文化の影響は皆無であり、アトゥル・ドディアや、バングラデシュのアブダス・サラム(図版4)が参照するのは、南アジアでの大衆娯楽の王座を保つ映画のイメージなのである。

しかし、グローバルな商品流通やインターネットによる情報に慣れ親しんだ若い作家たちには、直接に広告やマンガや商品イメージを使うことがなくても、「ポップ」な感覚は深く身に付いている。ファッション・デザイナーでもあるインドネシアのティアルマ・ダメル・ス・シライットのどぎついピンクの服、アメリカのアニメとハノイにあふれるプラスチック製品の色彩に惹かれたベトナムのティファニー・チュン(図版5)がその例である。そしてさらなる「ポップ傾向」の変容を示すのが中国のツァオ・フェイとインドのシルパ・グプタである。

ツァオ・フェイ(図版6)の才能を最初に印象付けたのは、街角の労働者、おばあちゃん、警備員などにヒップ・ホップを踊らせたビデオ作品である。またコスプレの若者たちを、殺伐とした巨大都市の風景や、しょぼい家庭環境と対比した作品では、庶民の現実とポップ・カルチャーを同等にとらえている。シルパ・グプタは、女の子っぽさを装いながら、様々なメディアを使いこなして果敢にインド社会の問題を扱ってきた。ゲーム感覚あふれる近作では、異なるスタイルの迷彩柄をまとった女性たち(すべて作家自身が演じる)が、観客のマウスのクリックにより、軍隊の教練のような同じポーズをとっていく。この二人に共通するのは、巨大な経済成長の中で変容する社会への注視であり、映像テクノロジーの巧みな利用であり、異なる社会集団を分かつ境界を越える

手段としてポップなイメージとメディアを使っていることである。

ここで紹介した「ポップ傾向」の作品は、伝統とのつながりや素材感にアジアらしさを期待する人を失望させるかもしれない。またかつての東南アジア作家に見られた政治性が希薄化になったことに不安をおぼえる人もいるだろう。しかしこれらの動きが、ステレオタイプなアジア観を乗り越え、都市化とグローバル化のすすむアジアの現実を見つめ、文化や言語の差異を超えた相互理解を導く可能性がないとはいえない。それが可能になるのは、大衆文化を消費の泥沼と企業の専制から救い出し、大衆文化のメディアやテクノロジーを、社会に介入するための手段として使いこなすことによってである。自国のポップ・カルチャーへの愛情とともにそのような戦略を持つ精神をこそ「ポップ魂」と呼びたい。

<福岡アジア美術館情報>

コレクション展「ポップ魂～現代美術と大衆文化～」

2007年6月28日～10月2日

水曜休館 10:00-20:00 入場は19:30まで

観覧料 一般200円 高大生150円 中学生以下無料

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1

リバーインセンタービル7・8階

TEL: 092-263-1100 URL: <http://faam.city.fukuoka.jp>



くろだ らいじ

1961年東京生まれ。東京大学大学院修士課程修了。1985年から福岡市美術館、99年から福岡アジア美術館学芸員として、「アジア美術展」「福岡アジア美術トリエンナーレ」の企画に関わる。1995年、日本文化芸術財団より日本現代美術奨励賞受賞。共著に「アジアの美術 福岡アジア美術館のコレクションとその活動」(美術出版社、1999年)。専門は日本戦後前衛美術。

アジア太平洋都市サミット 会員都市紹介

●海外(17都市)

オークランド市(ニュージーランド)、バンコク市(タイ王国)②、ブリスベン市(オーストラリア連邦)、釜山広域市(大韓民国)、大連市(中華人民共和国)、広州市(中華人民共和国)、ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)②、香港特別行政区政府(中華人民共和国)、ホノルル市(アメリカ合衆国)、イポー市(マレーシア)、ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)、クアラルンプール市(マレーシア)、マニラ市(フィリピン共和国)、上海市(中華人民共和国)、シンガポール共和国、ウルムチ市(中華人民共和国)①、ウラジオストク市(ロシア連邦)

●国内(9都市)

鹿児島市、北九州市、熊本市、宮崎市、長崎市、那覇市、大分市、佐賀市、福岡市

注:○数字はF+掲載号数です。

今回のレポートは、東南アジアでは人口、面積ともに最大規模を誇るインドネシアの、これまた東南アジア屈指の大都市ジャカルタ市、そしてサミット会員都市では数少ない欧米文化圏で何となくイカシた雰囲気漂う美麗都市ブリスベン市から報告する。

APCS都市三大インパクト ジャカルタ市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 交流推進係長 アジア太平洋都市サミット事務局 山本 公平

1 パク 真偽の狭間で揺れる夜の水中翼船

シンガポール、イポーと巡り今回の出張の最終目的地ジャカルタへの到着は夜。さすがに疲れ気味だったが、ホテルにたどり着くまでは安心できない。早速タクシー捕獲作戦。といってもうじゃうじゃと攻勢をかけてくる客引きから安くて信用できそうな人を選ぶのだ。何とか業者は決定するも車選びで一悶着発生。こちらは2人なので、小型車で良



水を切って進むバイク



市役所前には救助ボート



緊急時にも親切なスタッフ



2007年2月5日付ジャカルタ新聞より

いのに、大型のワゴンに乗せようとする。チッキショー旅行者とおもってナメんなよ!て意気込みで双方ともつたない英語でたどたどしくエキサイトしていると、どうも「ジャカルタは大洪水になっちゃって、小型車やと水没して走れんぞ。走れても水漏れで、あんよがビチョビチョになってもええんかいおたくら?」と脅しているようだ(多分)。「そんなうそやろ、全然雨なんか降とらんやん。だましたら金返してもらうけん、証拠にあんたの写真撮るバイ」と言ったつもり)パシヤッ!などとやり合うが、結局ワゴンに乗る。しばらくは高速道路をスイスイと走り「やっぱりだまされたか」と思っていたら次第に前方でテールランプの赤い光が繋がります。その先に目をやると、誰ぞの歌ではないが、暗闇の中でアスファルトが溶け、ひたひたと波打っているではないか。確かに小型車は半分ほど水没し

て進んでいる。サンダーバード4号か!そしてわれらが水中翼船は意気揚々と水を切って突き進んだ。(車高高くてよかった。疑ってごめんねタクシー屋さん)完全に水没した高速道路が通行止めにならないのは信じがたいが、おかげでホテルに到達できた。翌日は半分諦め気分で役所を訪問。交通網遮断のためか職員がほとんど見あたらない。しかし、なんとか担当者発見。最終的には自宅が水没している方もいるのに大変協力的・好意的な対応をいただき、多くの責任者と面会出来、出張の事前調整の際に感じていた不信・不安感が一気に吹き飛んだ。結局この洪水は100人近くが死亡する大惨事となった。

2 パク マニアうけする!? 正真正銘「オランダ村」

オランダ村と言えば長崎でしょ!!てのが正しい九州人かどうかはさておき、西暦1600年の「イギリス東インド会社」以降、ヨーロッパでは沢山の東インド会社が設立され、中でも世界初の株式会社と言われる「オランダ東インド会社」は



南米から導入した交通システム(専用レーンバス)でジャカルタ駅に向かう。チケットは使い倒されており、何が書いてあるのかさっぱり。



ジャカルタ駅で見た唯一の案内板は、オランダ統治時代に張り巡らされたジャワ島全土の路線図。しかし管理出来ず既に廃線となった路線もそのまま表記。細かいことは気にしない。

東南アジアを中心に躍進、台湾や日本でも活発に活動するようになるのは周知のとおり。そしてこの「会社」は並大抵の会社ではなく世界的な規模で活動する「軍事武装商社使節団」として一大海上植民地帝国を作り上げ、莫大な利益を上げるようになる(最近では映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」で世界制覇を目論む悪役として登場(イギリスの方)しているが、さもありなん)。ここで言う「東インド」とは正にインドネシアのことであり、オランダはジャカルタに総本山としてバタヴィア城を築く。そして1942年に日本軍が占領するまでその植民地となる。だからジャカルタに本家本元(オランダのオランダによるオランダのための)「オランダ村」があるのも当然だ。ジャカルタ「オランダ村」はジャカルタ駅の裏手にひっそりとうらぶれた佇まいを呈していた。遠目には華麗なコロニアル様式の建造物が窺えるのだが、近づくとも廃墟マニア(私)の琴線に触れる朽ちかけた建築が目白押し。修復すれば立派な観光資源になりそうだが、その前に社会情勢を安定させねばということだろうか。マニア的には廃墟のままで十分いけるが。

3 パク どこでも文庫? たくまじき市民たち

旅先での一番の楽しみはもちろん現地の料理って訳で、道端の大衆食堂で何とも表現しがたく甘辛いサテ(焼き鳥)を食す。折しも鳥インフルエンザの緊急警報が発せられ、街のあちこちで消毒



オランダ風の美しい町並みが広がるが、近づいてみると...

車が煙を振りまく中での鶏肉はいやが上にも一段と迫力を増すはずだが、そんな理性的な思考が頭をよぎる隙も無いほどの喧噪と埃が舞い上がる路上食堂であった。すぐ真横を爆音のバジャイ(三輪タクシー)がけたたましく行き交い、そんな騒音をものともせず、ギター片手の流しが店内を徘徊する。とても音楽なんて聴ける環境じゃない(というかそもそも聞こえない。ヘビメタならまだしも)。そして次に現れたるオヤジは1m程も積み上げられた雑多な本を両手で縦挟みにしてつかみ、どうだ!とばかりに「ドン!」と各テーブルの上に叩き置く。ハンディー移動図書館?どこでも文庫か?なんてことではなく、もちろん商売だ。ここではあらゆる隙間で、ガムやら使えない携帯やら傘やら古新聞やらを商う人々が溢れる。一体誰がこんなものを?とって眺めていると意外に買う人がいる。持



インドネシア語の本が私の前に積み上げられる。

ちつ持たれつ、明日は我が身と思うのか。この街を歩いていると、いろんなところから生活者の優しさとたくまじさが垣間見えてくる。

おまけ

アジアと言えば?

屋台しかないっしょ!!と言うわけで性懲りもなく探し歩いて見つけたのが鳥ものバーベキュー。鳥が好きなんだからしかたない。それにしても感動したのがちょっと見いい加減そうな兄ちゃんの仕事ぶり。何度もたれを付けじっくり時間を掛けて炭火で炙るのだ。(つきっきりで20分程は掛かっただろう)言葉も通じずぼったくられるかもと少々恐れていたが、150円位と激安でお釣りもちゃんとくれた。もちろん味も極上。

あたたかい人々とおいしい食事、もちろん気候もあたたかい(というかめっちゃ暑いけど)インドネシアは魅力溢れる国だ。



そんなに手間暇掛けなくても... 焼き上がりを待ちわびる。



鳥インフルエンザ警報のポスター



格安で極上の味



可愛い顔して爆音轟かすバジャイ



駐輪場じゃない。自転車タクシー乗り場



売れるゴミは自動的に収集される。これも格差社会の現れか。



日本でも珍しい超高級車のディーラー。これも格差社会の現れか。

APCS都市三大インパクト ブリスベン市の巻

(財)福岡アジア都市研究所 研究主査 山下 永子

0 パク ブリスベン・カンタービル

ブリスベン市は成長・進化・覚醒し続ける都市。その背景には猛スピードで進みゆくダイバーシティ現象がある。ダイバーシティとは性別・人種・言語・文化・宗教などに基づく様々な価値観が共存

すること、或いは、その集団・社会(と、ここでは定義)。

一方で、日本は世界の中でも「非ダイバーシティ社会」度の高い国。でも、これからもそうあり続ける可能性は低い。それは都市レベルでも同じことだろう、いや都市から変わっていくにちがいない。「多様性は社会変革を牽引していく」と

も言われている。

今回は、変わり行く社会のなか、持続的発展要請が益々高まる福岡市の都市戦略を考えていく上で、プチ参考になるブリスベンのダイバーシティなインパクトを「個人趣味(おたく)的視点」も交えて紹介してみたい。

1 パク 統計はダイバーシティをかく語りき

(1) 進行する多国籍化

ブリスベン都市圏エリアでは、2005年の1年で、1週間に 980人ずつのペースで人口が増えた(2005年人口270万人)。そしてまだ増え続けている。

この人口増の一翼を担っているのが移民。州のデータによれば、新住民の28%が外国からのニューカマーという。つまり毎週270名の外国生まれの人がブリスベンで生活を始めている状況にある。

(2) 英語は第二言語

ニューカマーにはアジア系が多い。紛争難民を受け入れているという国の方針もあるが、自己申告経済難民も多く、様々な国から人がやってくる。

●オーストラリア人(上位13のエスニックグループ)の民族意識:(2001年6月)

「祖先」として意識している民族	オーストラリアの人口全体に占める割合(%)	家庭で英語以外を話している割合(%)	回答者数(千人)
オーストラリア系	38.7	1.2	6,740
イギリス系	36.5	0.9	6,359
アイルランド系	11.0	1.1	1,920
イタリア系	4.6	42.3	800
ドイツ系	4.3	9.8	742
中国系	3.2	79.6	557
スコットランド系	3.1	0.9	540
ギリシャ系	2.2	68.8	376
オランダ系	1.5	15.1	269
レバノン系	0.9	80.0	162
インド系	0.9	60.2	157
ベトナム系	0.9	95.9	157
ポーランド系	0.9	40.1	151

出典:Australian Social Trends 2003,"Population-Population characteristics:Ancestry of Australia's population"

もともと移民によって国が形成された経緯を持つ国。オーストラリアは、英語が公用語だけれども、家庭では、様々な言語が普通に話されている。

ここで示したのは言葉に関するデータのみだが、その他の社会指標においても色々なダイバーシティ現象が確認できるはずだ。

2 パク ダイバーシティ指標「私(おたく)的」

(1) フードコート百花繚乱度は文句なしに指標の殿堂入りか

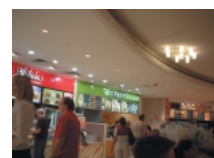
ブリスベンの商業ビル地下でよく見かけるフードコート。それ自体は、アジアでは全く珍しくない存在だ。しかし、次の3つ「①多種、②変革、③お昼だけ」はブリスベン・フードコート特有のダイバーシティ的特徴と考えられる。

①多種:東南アジアのフードコートは中華・マレー・タイ・ベトナム・ムスリム、ハンバーガー類が定番で、それに日本・韓国がたまに見られる程度。でもブリスベンでは、これにイタリアン、メキシカン、ターキー、オーギー、ギリシャ、ミドルイーストなどが加わる。多様な食がライフスタイルの中にすっかり入り込んでいるのだ。

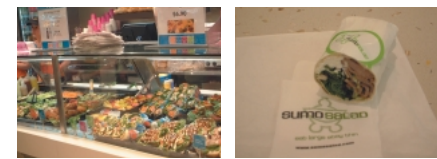
②変革:今時アレンジを超えた変容メニューがあちこちで目に飛び込んでくる。一例紹介「スモウサラダ」。店のキャ



多国籍へのゲートウェイ



食の見本市の様相



健康志向でサラダが人気、でも量は多め 「Eat Large Stay Thin」だけど、既にThickの場合は?

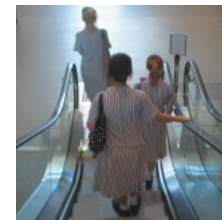
ラクターは相撲レスラー(日本)、キャッチは「Eat Large Stay Thin」、具はレタス、パンプキンなどの野菜、フェタチーズ(ギリシャ)、それにローストビーフ(オーギー)、それをピタ(ギリシャ)生地でブリトー(メキシコ)風に巻く。普通では見られない4ヶ国連合艦隊、これがレポリューションでなければなんと言おう。

③お昼だけ:ブリスベンのお店はかなり早い時間に営業を終了する。フードコートも昼だけ大繁盛。おそらく、各家庭では自分たちの食文化がきちんと守られていて、だからこそお昼は冒険、みたいなノリになっているのかもしれない。

「フードコートの百花繚乱度は、ダイバーシティがもたらす社会変容」と関係にある!

(2) 女子高生制服図鑑度は果たして指標となりうるか

日本に「制服向上委員会」なるアイドル



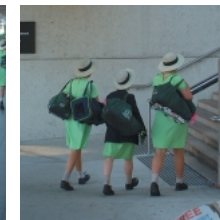
エンジの縦ストライプは清楚なイメージを増幅



オーストラリアの至宝ワインをリスペクトした制服?



日本的には普通の制服、視線の先に⇒A



A:ありえない色、キウイ系NZ系スクールか?



80年代を思い起こさせる着こなしと短パンバージョン



ブルー格子は快活さを演出、丈もちょっぴり短めに



ブリスベン制服着こなし大賞!クール!



黒い髪と紺色に、なんとなく、ホッ

グループがいる。そのアイドルが着ている制服はオーストラリアの有名なデザイナーによるものらしい。そんなことはもちろん知らずに足を踏み入れたブリスベン。でも、すぐに気づいてしまった。なんて女子高生の制服がカラフルでユニークなの!

制服ダイバーシティな訳を考えてみた、が、分かるわけがない。でも1つだけ想像して言えるかも、と思ったのは、「多様な価値観の中で若いときにちゃんとしたアイデンティティや帰属意識を持つことの必要性を、制服というコードで学ばせようとしているのではないか」ってこと。ダイバーシティのなかで流されない「自分」を持つということは本当に難しいはずだから。

「女子高生制服図鑑度は、ダイバーシティにおけるアイデンティティ確立」に寄与の可能性あり!

(3) 仮説:ミントチョコ定着率はダイバーシティ度に比例するか

これまで約40ヶ国200都市以上を旅してきた私。そこで欠かさずやってきたお約束事の1つに「ミントチョコ・チェック」がある。

さて、結論から言おう。オーストラリアはこれまで訪れた国のなかで最もミントチョコの種類が多い国(多分日本は少ない国グループの1つ)。経験のみに基づく強引な整理では、ミントチョコの分布図はオーストラリアをボトムとするブーメラン曲線を描く。そしてブリスベン線対称中軸線

の中央に位置するミントチョコ首都だ。

收拾が付かなくなりそうなので、もう個人趣味と推定断定にはさよならしよう。要は、この曲線上にある地域は、海の交易ルートとして栄えたエリアとかぶるため、ダイバーシティ度が高いのではないかと。。。

「ミントチョコ定着率はダイバーシティ度と相似曲線を描く」と、コソッと断言したい!



私のデスクは甘いミントチョコの香りでいっぱい♡



ミントチョコ分布は豪州をボトムとするブーメラン曲線

3 パク ダイバーシティ社会・都市は先進都市戦略のショーケースなり

(1) グッド・シンプル・コミュニケーション
ダイバーシティ度の高い社会・都市の公共サービス・行政事業は、グッド・シンプル・コミュニケーションが不可欠だ。ブリスベンには優れたパブリックデ

ザインが数多く見られる。メッセージもとてもダイレクトで分かりやすいのだ。

(2) 「これは行政サービスです」の発信

多言語多民族都市においては、ブリスベンのように、市の事業・設置物に市章を付し、「これは行政サービスです」ということをきちんと示すことも大切。

国や都市が変われば自治体行政サービスの範囲も大いに異なる。ニューカマーに「良い市民」として住んでいただくためには、責任や義務、管理や自由の範囲について、常に情報提供していくことが求められる。

しかし、ブリスベンの市章はかわいい。「フカ9つで福岡」「9つのルが米を囲む久留米」って、どうして駄洒落ベースなの? ジャパン。

(3) 「エンゲージメント・プロセス」を重視したまちづくり

ブリスベン市役所は、近頃完成した「2026のシティ・シェイプ(マスタープラン)」づくりにおいて、「エンゲージメント・プロセス」に2年間と3億円をかけたという。耳慣れない言葉だが、このエンゲージメントなるアプローチ、マーケティングなど様々な分野で今注目を浴び始めているキーワード。定訳はまだないみたいだけれども「巻き込んで力を借りること」「協働」という表現がわかりやすい。

紙幅の関係もあり、本稿ではエンゲージメントについて紹介できない。しかし、ぜひ別の機会に詳しくレポートさせていただきたいと思う。今回は「こんなものがありました」程度のご報告で勘弁ください。



何かかわいい、3コマ信号機表示 伝えたいモノ・コトはリアルに写真主義で

2007年4月28日～5月4日、国家放送映画テレビ総局と浙江省政府の共催による「第3回中国国際動漫産業博覧会」(アニメフェア)が風光明媚な杭州市で開かれた。アジア最大ということもあって、イベント会場の広さは4万6千㎡、期間中の来場者は43万人を超えた。「東京国際アニメフェア2007」(3月22日～26日)の10万7千人に比べてほぼ4倍の規模になる。

中国唯一の国家級アニメ産業イベントとして、国内企業に世界の新しい技術、海外企業との協力・合作のビジネスチャンスを紹介する一方、海外企業に中国企業への投資、ビジネス交流、OEM(自社ブランドや技術による委託生産)といったビジネスプランを提供することによって、交流を促進し、中国のアニメ産業を発展させることがこの博覧会の開催主旨である。

会場には中国政府がアニメ産業を育成するために認定した19もの「国家動画面産業育成基地」、そして100社を超える国内のアニメ制作会社やクリエイティブ企業、さらに香港、台湾、韓国、日本及び欧米のアニメ、漫画、ゲーム、玩具、ギフト、キャラクターグッズ、アクセサリ―そしてアパレル関係など計280の企業が出展した。一方、アニメ産業投資商談会やライセンス加盟商談会、中韓アニメ企業B to B商談会(企業間の電子商取引)なども同時開催され、会場内での取引額は6億元に達し、それに場外のもあわせると、期間中に合計46億元以上の取引が行われたと地元新聞が報じている。

主催者の意図を反映するように、アニメフェアの「産業化」傾向は年々強まっているとも言われる。しかし現場の感じでは、一般の人が来場して楽しむエンターテインメントのイベントという印象が強く、



会場入口



コスプレのステージ



人気作家と記念写真

現に子供や若者の姿も圧倒的に多かった。彼らに最も人気があるのはやはり「中国コスプレスーパー大会」であり、ステージの周りにいつも人集りができていた。

このコスプレ大会には全国7地区の予選を勝ち抜いた人たちが登場し、韓国や日本からの参加も加わり、賑やかなステージが繰り広げられていた。最終戦に優勝した二人は日本で開かれる世界大会への出場権を手に入れた。聞くと、中国のコスプレイヤーの多くは芸術学校の出身者であり、趣味からだけでなく、実際に専門的な訓練を受けている人も多い。だから、歌や踊りといったパフォーマンスも鮮やかに披露してくれて、オタク文化にありがちなネクラなイメージをあまり感じさせないようだ。

イベント会場でもう一つ人気なのは漫画やアニメ作家のサイン会である。中国ではマンガやアニメといったポップカルチャーが国家戦略の一端として



会場前広場の熱気球



記念撮影するコスプレファン

推進されているが、現場の担い手はやはり「80後」世代、つまり80年代生まれの若者である。彼らは全く新しいイメージを持って登場し、自分たちのアニメ文化を楽しんでいる。

その一人は杭州生まれの美人画家である阮筠庭だ。大学で服飾デザインを専攻し、アメリカの大学でアニメと映画を勉強した彼女は、いまや中国美術学院の教師をつとめる傍ら、短編アニメ「白蛇」や漫画「虹色の空」などヒット作を次々と発表している。会場では彼女のサインを待つファンの列が延々と続き、みんな嬉しそうに彼女と記念写真を撮っていた。

イベント会場にはバンダイ社のガンダムシリーズも展示販売されていた。初めて訪れたという手塚プロダクションの松谷社長は、杭州アニメフェアの規模に驚き、来年は是非日本館を出展させ、中国アニメの日本進出にも意欲を示されたと現地新聞が伝えている。

INFORMATION

[インフォメーション]

EVENT イベント

●都市セミナー

「まち元気セミナー ～賑わい再生をめざす街あきんどたち～」

日 時:2007年7月9日(月)14:30～17:00

場 所:福岡市役所15階講堂(福岡市中央区天神1-8-1)

第1部:基調講演「コンパクトシティ・青森における賑わい再生への取り組み」

講師:加藤 博(青森新町商店街振興組合常務理事)

第2部:パネルディスカッション「まちに賑わいを取り戻すためには」

コーディネーター:武田 浩(日本政策投資銀行九州支店企画調査課長)

パネリスト:加藤 博(青森新町商店街振興組合常務理事)

竹本 慶三(ささば四ヶ町商店街協同組合理事長)

古川 康造(高松丸亀町商店街振興組合理事長)

西田 康弘(福岡市経済振興局振興課長)

主 催:福岡市、(財)福岡アジア都市研究所

定 員:250名

申込方法:電話かFAXまたはE-mail(event@urc.or.jp)で郵便番号、住所、氏名、電話番号を
当研究所までお申し込みください。(ホームページからの申込も可能です)

申込締切:2007年7月4日(水)

●賛助会員制度

年会費(法人一口:10,000円、個人一口:5,000円)をお支払いいただくと、さまざまな特典が受けられる賛助会員制度があります。詳しくは、財団法人福岡アジア都市研究所までお尋ねください。

TEL:092-733-5686 FAX:092-733-5680 E-mail: info@urc.or.jp

- 特典 ――― 1. 研究所主催のセミナー等の開催情報をお知らせします。
2. 都市情報誌を毎月1部無料でお届けします。
3. 研究紀要を毎月1部無料でお届けします。
4. 中国動向・韓国動向を毎月1部無料でお届けします。

●都市政策資料室

(財)福岡アジア都市研究所の都市政策資料室では、アジア地域を含む都市政策関係図書、各種調査・研究の成果報告書、行政資料などを幅広く収集・公開しております。また、アジア開発銀行の寄託図書室の指定を受けております。どなたでもご利用いただけます。皆様のご利用をお待ちしております。

開室:月～金10:00～17:00
(土曜日・日曜日・祝日・年末年始・毎月最終業務日・資料整理期間(不定期)は休み)

資料検索:研究所のホームページから資料室の図書・資料が検索できます。

●バックナンバーのお知らせ

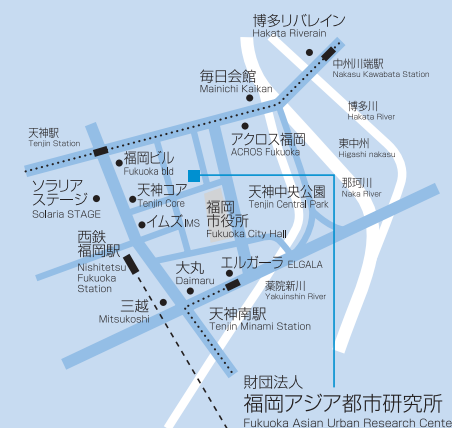


第1号
(2006年12月25日発行)
特集 博多駅
いま 過去・未来―

※当研究所のホームページからご覧いただけます。



第2号
(2007年3月30日発行)
特集 まち歩き
―まちの魅力再発見―



●編集後記

商店街には、新天町などの広域型商店街と、今日の夕食の惣菜を売っているような地域型商店街があります。今回の特集はあえてこの地域型商店街の特集しました。地域に密着しているからこそ、無くてはならない存在なのです。取材で各地の商店街にお話をお伺いに行きましたが、みなさん明るく意欲をもって活性化に取り組んでいらっしゃいました。商店街に賑わいが戻ってくる日も近いと思いました。(今川)

今年4月より福岡市役所から当研究所に転出し、本号より編集スタッフの一人として担当することになりました。より多くの市民の皆さまのもとへ、最近の身近な都市の話題について、わかりやすくお伝えできればと考えています。6月と12月の年2回の発行ですが、どうぞご愛読ください。(梶返)

●次号予告

第4号 2007年12月発行予定
特集「国際協力」(仮題)

紛争・災害・貧困など、人々を苦しめる問題はますますグローバル化しています。そのような社会において、問題解決のために、福岡市はどのような活動を行っているのでしょうか。第4号では、福岡市の国際協力の現状と展望についてさまざまな立場から考察します。

都市情報誌fU+ (エフ・ユー プラス)第3号
2007年6月22日発行

■発行所
財団法人福岡アジア都市研究所
〒810-0001 福岡市中央区天神1-10-1
福岡市役所北別館6F
TEL: 092-733-5686
FAX: 092-733-5680
E-mail: info@urc.or.jp
URL: http://www.urc.or.jp

■編集責任者:陶山 靖
■編集スタッフ:梶返泰彦 今川 浩
瀧山直子
■デザイン・印刷:秀巧社印刷株式会社